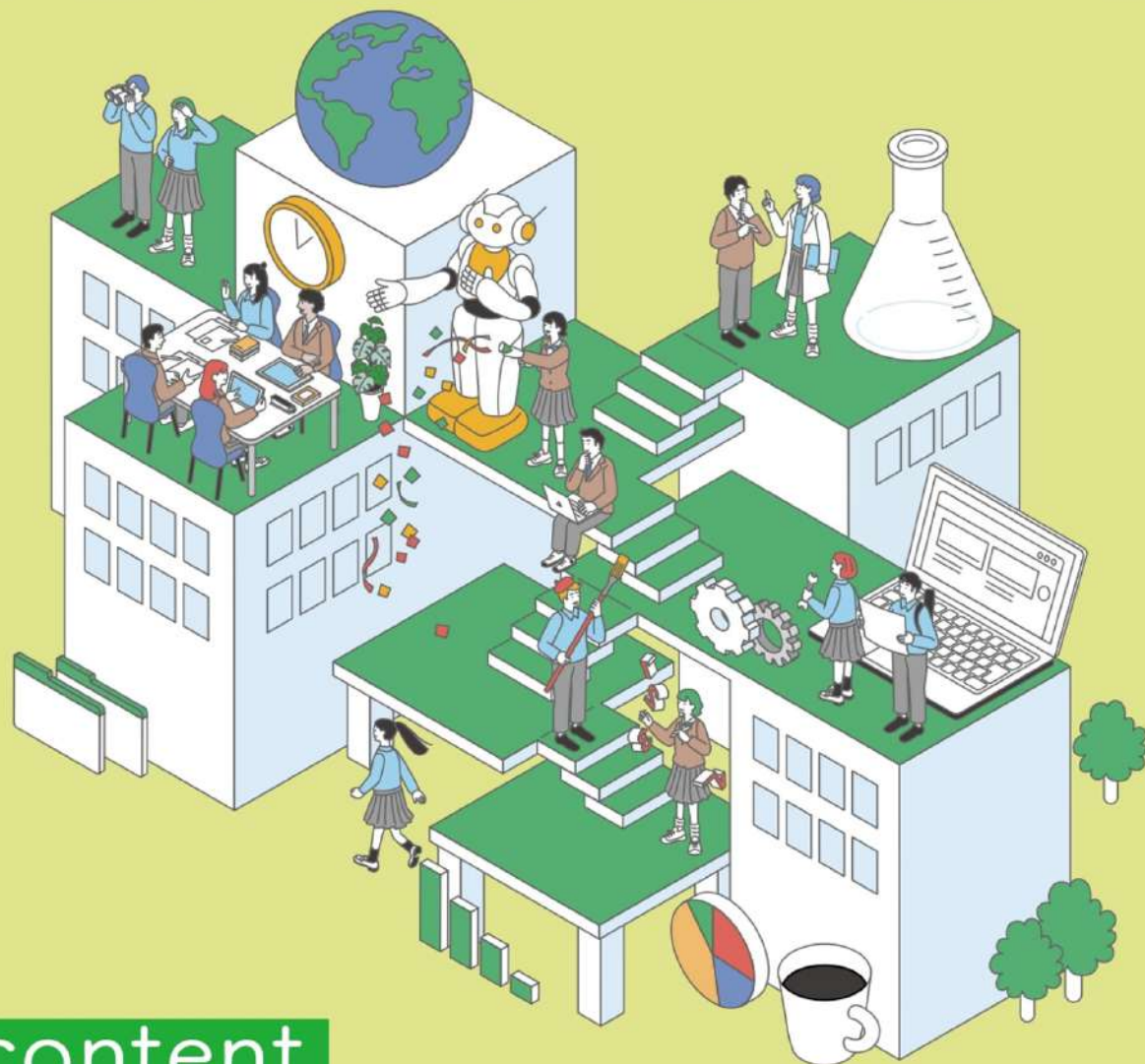


学園だより

第93号

令和8年3月発行

都城工業高等専門学校
広報委員会



content

●巻頭挨拶	1	●特集Ⅲ こちら後援会	25
●学内動向	2	●新旧学生会長挨拶	27
●ようこそ学生相談支援室へ	4	●学内トピックス	28
●着任挨拶	5	●高千穂寮トピックス	31
●退任挨拶	7	●学生表彰	32
●卒業記念・修了記念	8	●国際交流トピックス	35
●特集Ⅰ 文化祭	20	●都城高専少年少女科学アカデミー	37
●特集Ⅱ こちら在校生	23	●主な就職・進学内定先一覧	38

高専の教育

校長 田村 隆弘



校長として学生と対面向き合う場面として、式典で演台越しに証書などを渡すこと以外に、大会やコンテストなどで素晴らしい成果を出して（良いことをして）校長室に報告（表敬）に来る時、文化祭、体育競技会などでの挨拶やビデオ収録、パンフレットの原稿を依頼に来る時、そして、規則違反など（良くないこと）をして訓告を受ける時の大きく3つのケースがあります。

3つ目の良くないことをして訓告を受けに来る学生に対して、私は、「何をしに高専に来ましたか。」と問いかけます。何をしに、何のために、つまり、目的を持って高専生活を送っていますか、目的に向かって、自分の時間を出来るだけ無駄なく使っていますかと。

高専制度が創設されて63年が経過、本校も創立61年目が過ぎようとしています。当時、国は、産業界の要請に応え、日本の高度成長期を支える高等教育機関として高専を設置することを決めました。このため、高専の教育プログラムは、「高校・大学とは異なる実践的な人材の育成」をテーマとして試行錯誤しつつ作られました。そして、今なお教育内容は時代の変化にあわせて高度化しています。

高専教育の特徴の一つは、早期専門教育。一見、高校・大学で7年掛けて学ぶ内容を、5年一貫で行う詰め込み型教育のようにも見えますが、実践的人材育成のために効果的な教育内容を厳選し、特に、演習や実験実習に多くの時間を確保したカリキュラムになっています。専門を学ぶための基礎的な知識を習得してもらうため、低学年では一般科目が多くなっていますが、それでも、限られた授業コマ数の中で、1年次から専門の知識や技術に触れるようカリキュラムが構築されています。

もう一つの特徴は、大学生より若い年代（本科4年～5年）で専門的な分野の研究に取り組み始めることです。教授するのは大学の教員と同等の研究力を持った教授陣（教授、准教授、講師、助教、そして、技術職員）です。ただ、大学では宇宙の成り立ちとか人類の進化といった学術的な研究テーマが多いのに対して、高専における研究テーマはAIやIoT、ロボットなど新技術を活用した未来社会の創造や社会的な課題など実践的なものが多くなっています。

他の国で例を見ない我が国独自の教育制度ですが、高専の設置が日本の高度成長や近代化を支えたことは、国際機関OECDの教育レビューにおいても高く評価されています。ひとえに、高専教育を模索し続けてきた先輩教職員の努力の結晶であり創設期の卒業生が期待に応えた成果でもあります。彼らが築いた高専教育への信頼は、今なお、多くの企業から高専生への求人がなされていることや、全国の大学からも高専生を編

入で受け入れたいという声が多く寄せられている状況が物語っています。

早期専門教育や研究で学生を育てると書きましたが、実践的な人材育成という大きなテーマは、実は座学や実験実習といった授業だけでは達成出来ません。社会に出る前に、人として大切なことを身につける必要があります。いかに知識や技術を身につけていても、人として信頼されなければ、それらを活かすことができません。

人から信頼される人格を形成するには、多種多様な人間関係を学ぶ必要があります。実は授業で学ぶ勉強よりも広く深いテーマで、もちろん一朝一夕で獲得できるものではありません。むしろ一生学び続ける必要があるといっても過言ではないでしょう。

信頼される人になる上で、知識や技術を持っていることは大きなアドバンテージです。しかし、「嘘はつかない、約束や時間を守る、所属する社会集団におけるルールを守る」という最も基本的なことや、これらに加えて「良好な人間関係を構築できる」といった力が必要です。

良好な人間関係を構築する力を身につけるには、人間関係を構築する経験を多く積むことが必要です。自ら辛い体験をすることは、人の心の痛みを理解できる能力（シンパシー）を高めることにもつながります。

高専は大学と同等の高等教育機関であるとの思いから、学生の自主性を重んじた運営をしており、おそらく高校よりも規則等は緩やかな面もあるかと思います。しかし、放任ではありません。高専では、クラブ活動、サークル活動、学生会や寮生会活動など、課外活動として幅広く人間関係を学ぶ場を用意し、教職員が見守っています。クラブ活動やサークル活動で、あるいはチームで大会やコンテストに参加することは、その準備から大会での結果を受け入れるところまで、チームメイトと苦難を乗り越え、痛みを共有することでもあるでしょう。

高専時代に自分の限界を決めつけずに自分の限界にチャレンジすることは、とても大切なことです。そのチャレンジは必ず自分を成長させてくれます。中途半端にあれもこれもかじってみるのではなく、何か一つ（もしくは二つ、欲張って三つくらいまで）全てを賭けて自らを限界まで追い込むようなチャレンジができるのも高専時代です。

いかがでしょうか。5年間は長いようで実はあっという間に過ぎていきます。勉強、課外活動、将来に向けて準備しなくてはいけない事はいくらでもあります。ゲームやネットサーフィンに自分にとって大切な時間や集中力を奪われないように。まさか、夜な夜な家や寮を抜け出して遊んだり、寝の間も惜しんでゲームしたりしてないですよね。

学内動向

この一年の成果と課題

教務主事 土井 猛志



教務主事の立場で「学園だより」への寄稿も、今回で3回目となりました。日頃の教養の浅さもあり、毎回、何を題材にするべきか悩みながら筆を執っています。そのような中、主事として3年目を迎えた今年度について、「この1年の成果と課題」を振り返ってみたいと思います。

まず、今年度は、学校全体として重要な「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」および「国立高専教育国際標準(KIS)評価」を受審しました。まず前者について、本校では既に「リテラシーレベル」の認定を受けており、さらにその上位の「応用基礎レベル」について認定を受けることは必須とされていた中で、このたび無事に「工学教育の素養～数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）」として認定されました。これは、数理・データサイエンス・AIを活用した各専門領域における課題を解決するための実践的能力について、これを育成するために必要な基礎的知識及び技術修得のために設計された教育課程となっています（詳細は本校HP参照）。

さらに後者については、5月に書類を提出し、11月に実地評価を終え、現在、認定結果を待っているところです。もちろん認定されることを願っておりますが、本審査の過程で指摘された様々な事項については早急に改善していくことが求められています。そして、もっと魅力的な学校となるよう改革していくことが最も大きな課題となっています。

反省や課題一杯の1年ではありましたが、学生の皆さんの多方面での活躍に、活力をいただきました。感謝申し上げます。今後も精一杯取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学生の多様な学びと今後の成長への期待

学生主事 永松 幸一



今年度、本校は夏から秋にかけて九州沖縄地区高専体育大会（陸上競技・ソフトテニス・バドミントン・水泳・ハンドボール・ラグビー）、冬には全国高専体育大会（サッカー）を主管しました。2027年に本県で開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会のメイン会場等も活用し、学生・教職員・保護者の皆様、大会関係者のご協力により、すべての大会を無事に終了することができました。この場を借りて感謝申し上げます。

学生の皆さんは「する・みる・支える・知る」を実践する中で、それぞれの立場で「楽しさ・喜び・やりがい」などを味わう貴重な機会になったと思います。また、思うように結果が出ない悔しさや反省も、大切な経験や学びであり、今後の成長の原動力に変えてくれるものと期待しています。更に、3年ぶりのロボコン全国大会出場、JR都城駅1階のリノベーション活動（交流スペース）、文化祭において初のクラウドファンディングを実施するなど、学生による幅広い活動も展開されました。

昨年度の本校創立60周年記念事業、高専祭、ロボコン九州沖縄地区大会主管など、コロナ禍を経て、この2年間で様々な学外活動の土台が整い、学生が地域へ飛び出して広い視野を得るきっかけとなっています。

今後は、学生がこれらの経験を日常の学内生活へ還元し、仲間との協働や相互のサポートを通して、より良い学びの環境づくり（学校づくり）に活かしてほしいと考えています。

新生高千穂寮の完成

寮務主事 若生 潤一



令和7年3月末に第3棟が竣工し、令和3年の国際寮新設を端緒とする高千穂寮の建て替え工事が一通り完了しました。新高千穂寮の完成に伴い、二つの大きな変更を行いました。

一つ目は、入寮基準を見直し、通学生も入寮可能としたことです。通学距離にかかわらず、保護者等のもとを離れて自立する強い意志を持ち、寮の規則を遵守できる学生については、居室に空きがある限り入寮を認めることとし、後期から追加入寮生の募集を行いました。

二つ目は、国際寮を本来の目的である国際交流の場として運用開始したことです。入寮選考を経て、後期から男子4名（うち留学生1名）、女子8名（うち留学生2名）が国際寮に入居しました。来年度は新たに3名の留学生を迎える予定であり、短期留学生の受け入れも計画しています。今後、国際寮を拠点として本校の国際交流活動が一層活発化し、国際的な感覚を備え、海外でも活躍できる技術者の育成に貢献することを期待しています。

また、前年度11月から活動している寮生会役員（寮祭については寮祭実行委員）を中心に、新入生歓迎会、寮祭、寮マッチ、ナイトカフェ、寮生総会など、さまざまな寮生会行事が入念な準備のもと実施されました。これらの活動を通して、寮生同士の縦横のつながりや一体感がなお一層醸成されたと思います。ご尽力いただいた寮生会役員、寮祭実行委員、協力してくれた寮生の皆様に感謝申し上げます。

一方で、男子寮における清掃活動の定着や共有スペースの整理整頓など、いくつかの課題も見受けられます。今後は、寮生が互いに敬愛啓発し合い、共同生活のさらなる向上に努めてくれることを期待しています。

学内動向

国立高専教育国際標準認定制度の評価を受けて 総務企画主事 清山 史朗

昨年度の学園だよりにも寄稿しましたが、今年度、本校は新しく設置された「国立高専教育国際標準認定制度（KIS）」の評価を受けました。KISは高専の5年間の本科教育に対して、国際的な教育の質保証の枠組みであるKISに基づく質保証を行うことで、高専の本科教育の質保証を国内外に対して明示するものです。評価の内容としては、大きく分類すると、1. 学習・教育到達目標の設定と公開をしているか、2. 様々な教育手段が適切であるか、3. 学習・教育到達目標の達成を確認しているか、4. 教育改善をしているかの4領域、11項目です。本校は11項目の内、2項目において指摘を受けましたが、この2項目はすでに教務委員会では対応いただいております。改善に動いています。また、特に優れている点として、①卒業論文評価で教育目標ごとの評価方法が学科毎に定められ、その観点において評価されていること。②学習ポートフォリオで、学生が学習・教育到達目標の達成度を点検・確認できるだけではなく、コメントも記入することができ、さらにコメントに対して教員が助言をすることができること。③ピアサポートスタディールーム、学習ポートフォリオ、おもしろ科学フェスティバルなどの各種イベントへの参加による学生の学習支援を行っていること。④学習ポートフォリオやピアサポートスタディールームにおいては学生面談からもその認知度の高さを確認できた、と評価されました、実地評価にご協力頂いた教職員、学生の皆様に感謝するとともに、次年度の機関別認証評価の対応も引き続き、よろしくお願いいたします。



都城での研究活動

研究主事 岩熊 美奈子

R6年度に研究・地域連携主事という役職が設置され、R7年度も引き続き4月から主事を拝命している物質工学科の岩熊美奈子です。R7年12月に、研究主事（副校長）と地域連携担当（校長補佐）という2部署に分割されました。現在（R7年12月）は研究主事（副校長）が岩熊、地域連携担当（校長補佐）が建築学科の杉本先生が担当されておられます。R7年度のトピックスとしては10月4日に開催された「第6回宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」（主催：UMKテレビ宮崎、宮崎銀行、宮崎大学）に、「剪定ロボット開発班～南国リゾートの景観を守る～」を提案した機械電気工学専攻2年の坂本真偉夢さんが代表を務めるチームが最高賞となるグランプリに選ばれました。さらに、第25回九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテストにも出場し、数々の企業賞を獲得しました。本プロジェクトは宮崎空港ビル株式会社様との包括連携協定から生まれた地域の課題解決の1つで、「宮崎空港内にあるフェニックスの木から剥がれ落ちてくる幹の皮を危険なく回収できるロボットの開発」の依頼があり開発されました。すでにデモ機も数機開発されています。都城高専で開発されたロボットが宮崎はもとより、世界で活躍する日も遠くありません。地域連携テクノセンターでは各種イベントを実施し、学生さんの研究活動、アントレプレナーシップの育成や新規事業の開発、立ち上げを応援しています。チャレンジはその多くが失敗に終わることが多いです。しかし何度失敗しても立ち上がる環境を作っていける学校でありたいと願います。



大学院へのキャリアパス

専攻科長 野口 大輔

近年、専攻科修了後の進路に変化があらわれています。6月に開催された保護者交流会でのトピックとしてもご紹介させていただきましたが、専攻科設置後から現在までの大学院進学者の推移は増加傾向にあり、進学先も旧帝大クラスの大学院へ進学していることが大きな特徴です。既卒生にはなりますが東京大学大学院への進学実績もあります。

また、令和5年度より本校の専攻科に設定された「九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムコース」へ進学した学生を対象としたアンケート結果においても、殆どの学生が大学院修士課程への進学を希望し、全体の18%の学生は博士課程進学を希望しています。これは九大内部生と比較しても特異的な傾向です。座学だけでなく実験・実習にも重点を置く実践的技術教育を経験してきた高専生は、「実際に手を動かして試行する」能力が傑出していることに定評があります。その高専生が、1年次から九大で学び「理論的基盤の上に思考する」ことを強みとする九大内部生と出会い、切磋琢磨し、感性を共鳴させ、相互に学び合う環境に身を置くことにより、「心と手（Mens et Manus）」の教育を通し、高度な水準の俯瞰力・実践力を育むことが期待されています。

大学院へのキャリアパスとして専攻科を検討してみてもいいのではないでしょうか。



ようこそ学生相談支援室へ

学生相談支援室から

学生相談支援室長 田村 理恵

皆さん、こんにちは。今回は学生相談支援室の利用についてご案内したいと思います。まず、学生相談支援室は楽信館にあります。窓口は保健室です。でも、保健室で相談をするわけではありません。保健室は多くの人が入り来りしますので、実際に相談を受ける部屋は静かな2階にあります。ゆっくり落ち着いて話ができます。

【相談の流れとスタッフ】

相談がある時は、このページの下にある電話やメールなどから連絡して下さい。まずは、学生相談支援室の常駐スタッフが相談内容から、どの専門の先生と会ってもらうかを考えます。

ここで、スタッフの紹介をします。まず、学校に常駐しているスタッフは保健室の看護師さんたちと教員です。教員は室長と内部相談員がいます。現在は一般科目社会の田村と体育の武田先生です。また、長年本校に勤務されていた先生も相談に乗ってくれます。この方は主に学業面での相談を受け持たれています。それとは別に外部から来てもらっている専門家もいます。心の専門家である臨床心理士2名がスクールカウンセラーとして来てくださっています。また、福祉の観点から問題解決を目指す社会福祉士であるスクールソーシャルワーカーも1名、定期的に来校してもらい、学生や保護者の相談にのってもらっています。思ったより多くのスタッフがいるなと思ったのではないのでしょうか。なので、誰に相談するかというより、どんな相談があるかをまずは、窓口で話してもらえるといいと思います。

それから、日程調整に入ります。残念ながら、専門家の先生たちは毎日学校にいらっしゃっているわけではありませんので、先生方の来校スケジュールと、みなさんの日程を合わせます。みなさんも授業や部活がありますので、すぐに面談を組めない場合もあります。なので、可能であれば、早めに連絡してもらえるといいなと思っています。実は授業があっても相談は受けられて、その時間は公欠になります。授業は大切ですが、悩みを抱えたままだと授業に集中できないこともありますので、その場合は、授業より

カウンセリングを優先した方がいいと思います。

【学生からの相談】

進路相談、生活習慣の問題（朝起きられない、授業に集中できない、ゲームやSNSに依存している気がする、夜更かししてしまう）、学校に関する問題（レポート、課題にうまく取り組めない、寮での生活、部活や学生会活動）、人間関係（学校内外問わず）なんでも相談してください。現在では、Teamsを使ったオンラインでの相談も受けています。他の人に話を聞いてもらうだけでも気が楽になることがありますか？それも専門家に話を聞いてもらえるのです。悩んだ時には気軽に学生相談支援室に連絡して下さい。

学生相談支援室では「こころと体の健康調査」や「学校適応感尺度調査」も行っています。気になることはそこに書いて貰えば、こちらから連絡させてもらいます。とはいえ、直接連絡を取ってもらうのが一番早く確実です。

【保護者からの相談】

学生相談支援室という名称ですが、対象は学生ではありません。学生に関する相談を保護者の皆様からも受け付けています。「最近、子どもがあまり話をしてくれなくなった」「ゲームばかりしているので、心配」「進路について親子で意見が違っている」など、どのような相談でも遠慮なく学生相談支援室をご利用ください。

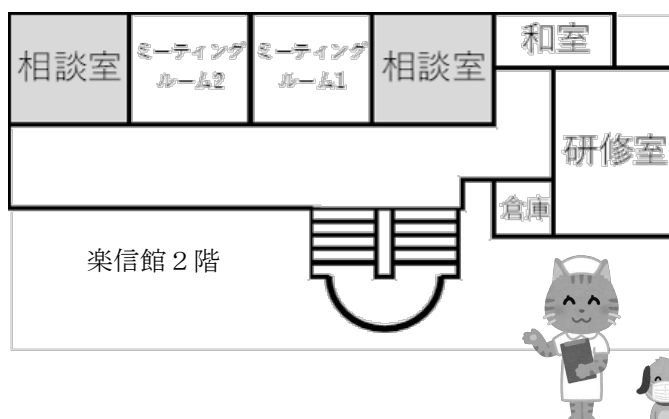
ご自宅が遠い場合でも、学生と同様、オンラインでの相談も受け付けています。本校は高等専門学校という、基本的に各県に1校しか設置されていない学校です。学校の仕組みも高校や大学とは違います。そのため、簡単に地域の人や親戚に相談しにくい、事情をわかってもらえないという事もあるかと思います。そのような時には、ぜひ学校にご相談ください。高専という学校の仕組みをわかった心の専門家、福祉の専門家をご相談に応じます。皆様からの相談をお待ちしています。

学生相談室の利用について

相談の申込は以下の方法で受け付けています。

- ・直接スタッフへ：田村室長、武田相談員、看護師に声をかけてください。
 - ・電話による申込：0986-47-1156（保健室）
 - ・Eメールによる申込：soudan@cc.miyakonojo-nct.ac.jp
- 悩み多い学生生活です、誰かに聞いてもらうだけでも気持ちが楽になりますよ。相談内容の秘密は厳重に守ります。安心して相談に来てください。待ってます。

相談室の場所はこちら



一般科目 栢山 剛



『だるま流』着任のご挨拶

三重県にある国立鳥羽商船高専からやって参りました栢山剛（はしやまたけし）と申します。私の出身は、鶴の飛来地で有名な鹿児島県出水市ですが、6年前まで都城市に住んでおりました。（宮崎県には通算で13年近く住んでおりますが、妻が串間市出身、長男は都城市立沖水中学校卒業、次男は中1の時に転校生となりました。二人とも伊勢市内の皇學館大学付属皇學館高校と三重県立伊勢高校を卒業後、現在、学部は違いますが、京都市内のM1で優勝した「たくろう」赤木君の母校、KSDこと京都産業大学に在学中です。）

一方、私の専攻はアメリカ政治外交史で、太平洋戦争やベトナム戦争を研究しております。鹿児島の高校を卒業後、福岡で8年間、名古屋で3年間学生時代を過ごしました。その後、宮崎と鹿児島の高校で19年間、鳥羽商船高専では5年間、英語教員をしておりました。その間に私は将棋部顧問を10年間、サッカー部顧問を10年間しておりました。また、福岡での学生時代には落語研究会（芸名：西遊亭幸福）と将棋部に所属しておりました。好きな言葉は『七転び八起き』で、私の将棋の棋風や人生哲学、それにサッカー戦術もこれに基づいており、穴熊といった超守備的スタイルを好みます。

この度、周囲の皆様ののおかげと伊勢市在住中に伊勢神宮（内宮・外宮）をよく散歩していたために、高専教員の立場で都城高専に異動するという幸運をつかむことができました。鑑真和尚が6度目の挑戦でようやく日本（鹿児島県南さつま市坊津）にたどり着くことができた心情と同じでしょうか。どうぞよろしくお願いいたします。

総務課契約係 園田 圭一郎



都城高専での新しいスタート

令和7年4月より、総務課契約係に着任いたしました園田圭一郎と申します。宮崎大学からの人事交流により、都城工業高等専門学校に勤務させていただいております。

都城高専には、二十数年前に先輩を訪ねて一度だけ足を運んだことがあり、それ以来のご縁となります。高専での勤務は初めてで、戸惑うことも多くありますが、新鮮な気持ちで日々の業務に取り組んでおります。

これまで大学では、総務系・会計系・学生系などの部署を経験し、契約業務にも携わってまいりました。しかし、高専では業務の守備範囲が広く、規則や運用方法、使用するシステムも大学とは異なるため、毎日が新たな学びの連続です。まだまだ不慣れな点もございますが、皆様の温かいご支援のおかげで少しずつ業務に慣れてきておりますこと、心より感謝申し上げます。

また、限られた人員の中で協力しながら業務を進める体制にも新鮮さを感じております。

学生課の業務にも応援要員として関わらせていただく機会がありました。日頃は学生系業務に直接携わることが少ないため、非常に貴重な経験となりました。

今後も一つひとつの経験を大切にしながら、微力ながら都城高専の一員として貢献できるよう努めてまいります。また、せっかく都城市で勤務する機会をいただいたので、この街についても理解を深めていければと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

総務課財務係 小林 あとり



着任のご挨拶

令和7年4月1日に総務課財務係に着任いたしました、小林あとりと申します。

平成27年3月に本校の物質工学科を卒業し一般企業に勤めておりましたが、この度ご縁をいただきまして、都城高専に着任いたしました。

勤務初日から、在学中にお世話になった先生方にお声を頂き、大変うれしく思います。

これまで社会人としての10年間で品質保証、製造、事務を経験してまいりましたが、今ほど財務会計に特化した業務の経験はなく、混乱することも多々ありますが、周りの方々に支えられ、勉強しながら業務にあたっております。

在学中には、体育競技会や高専祭、50周年記念式典などさまざまな思い出がありますが、都城高専の職員として戻り、先生方、職員のみなさまが長い時間をかけて準備をしてこられたことが分かり、自分たちが楽しく学生生活を送っていたのは教職員のみなさまのお陰であったことを痛感いたしました。

職員となったこれからは、自分も学生や教員のみなさまを支えられるよう、1つの業務にこだわらず、いろいろなことを経験、吸収し、精進していきたいと思っております。

まだまだ未熟な部分が多く、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、新規職員研修で教わった「アンテナは高く、腰は低く」の精神で精進してまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

学生課教務係 橋田 春陽



着任挨拶

令和7年4月に学生課教務係に着任しました橋田春陽と申します。

昨年の3月に高校卒業後、ご縁あって都城高専で働かせていただくこととなりました。

私の通っていた高校ではアルバイトが禁止されていたため、働くことが初めてで不安なことだらけでしたが、周りの方々に支えられ、大変充実した日々を過ごしております。未だにわからないことばかりで質問する日々ですが、丁寧に教えてくださる方々のおかげで、少しずつではありますが出来ることが増えてきました。

教務係では主に授業・試験関係を担当しております。

授業・試験関係の業務については、授業・試験の時間割作成を行っております。私の業務は、学生の皆様や先生方が日々の学校生活を送るうえで大きく関わるものです。時間割の作成にあたり、様々な制約がある中で時間割を作成する必要がありますので、その中で少しでも学生の皆様や先生方に充実した学校生活を送っていただけることを目標として業務に取り組んでおります。

この1年間を振り返ると失敗をすることが何度もありましたが、失敗したことは反省して、来年度では同じ失敗をすることがないように日々の業務に努めて参ります。

未だに多くの方々に支えられている立場ではございますが、学生の皆様や先生方を支える立場であることを自覚し、皆様の力になれるよう日々精進してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

情報教育センター 福田 和樹

着任挨拶



令和7年4月に着任いたしました、福田和樹と申します。
私は平成27年3月に本校の電気情報工学科を卒業し、その後10年間東京の土木計測機器を開発・製造するメーカーに勤めておりました。民間では、主に各センサからのデータ集約・表示を行うプログラムの開発に携わっておりました。

10年越しに帰ってきた母校は変わらない部分もある一方、在学時とは変わった部分もあり、懐かしさと新鮮さを感じながら日々の業務を行っております。

着任当初から「情報教育センター員」ならびに「情報システム管理室員」として、情報教育センターの維持管理と学校全体のネットワーク・セキュリティ・システムの維持管理を行っております。前職とは異なる分野と業務形態の中、関係者の皆様のご指導の下、業務に励んでおります。

後期からは機械工学科のものづくり実習において、指導員として学生の支援にあたっております。

専門外の分野であり、最初は不慣れな点も多かったですが、実習を通して、また他職員のご協力により少しずつですが理解が深まっており、微力ではありますが、学生へのサポートができるようになってまいりました。今後も専門以外の分野の知見を広げていき、広い視点で学生への指導ができるように努力してまいります。

最後になりますが、私自身まだまだ未熟な点が多くご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、精一杯努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

総務課契約係 石川 理紗

着任のご挨拶



令和7年2月に総務課契約係に事務補佐員として着任しました石川理紗と申します。

本校物質工学科を平成31年に卒業し、この度本校にご縁があり着任した次第でございます。こうして母校で働くことができるとは思っていませんでしたので感慨深い思いです。契約係では主に伝票作成、購入された物品の納品検収をしています。前職とは異なる職種での業務に苦戦しながらも周りの優しい方々に支えて頂き、もうすぐ着任して一年が経とうとしています。総務課をはじめとして教職員の皆さまの温かく優しいサポートのおかげで、日々の業務をこなすことができております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

学生と直接関わりのないと思われる総務課ですが、物品の購入や公用車の貸し出し等、研究や学校行事に関する教職員の皆様のやり取りの裏側を知り学生時代から皆様にお世話になっていたことを実感しております。すれ違う学生に元気よく挨拶される度に、5年間通った学校の建物を見る度に、自分の学生時代を思い出し懐かしく感じます。

私自身まだまだ未熟ですが、諸先輩方の背中を追いつき追い越せるよう日々努力して参ります。

ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

総務課総務企画係 菅野 しおり

着任のご挨拶



令和7年10月に着任しました菅野しおりと申します。

この度、ご縁があり都城高専にて働かせていただくこととなりました。

地元は鹿児島県で、専門学校を卒業、その後、佐賀県で5年ほど医療機関の事務職に携わっておりました。医療機関以外で働くのは初めての経験であり、質問ばかりで迷惑をおかけしておりますが、優しく丁寧に業務についてサポートしてくださる周りの方々に感謝の日々です。

学生の皆さんと関わる機会は少ないですが校内で活気ある学生の姿を見かけると、私自身も明るい気持ちにさせていただいております。皆様に支えられ、そんな環境の中で大変充実した日々を過ごすことができるのはとてもありがたいことです。

総務課総務企画係では、来校された方の対応や郵便物の取扱い、その他学校運営を円滑にするための業務の事務的補佐を担当しております。都城高専の窓口的な役割を担う部署であり、校内外の様々な人と関わることも多く、校外の方々には都城高専をより良く感じていただけるよう、校内の教職員・学生の皆様にはより良い学校生活を送ってほしいという思いで業務に励んでおります。

未だ不慣れなことも多く、皆様に支えられている立場ではございますが、都城高専の一職員として貢献できるよう日々精進してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



退任挨拶

退任にあたって

在学、進学等の後、1986年に当時の電子計算機センター勤務で採用され、今一般科目所属です。

まず、在校生、関係保護者、教職員、往年の在校生と関係保護者と教職員、他の皆様に、尽くせませんがお詫びとお礼です。授業や担任、部活、校務等でできなかったことも多く申し訳ございませんでした。一方、直接間接にご指導ご支援頂きまして誠にありがとうございました。

次に、記憶を辿ります。誤差はご容赦を。思いつくままに、本校で半世紀程前に、今と同様：学生便覧配布、関数電卓購入（前は計算尺使用も）、カウンセリング連絡は全クラス掲示、教室暖房あり（冷房はなし）、外国人講師の科目（英会話）等々。多少相違：全クラス2スパン、新入生研修2泊3日、全校集会（出欠確認なし）で全教員参列着席、美術も音楽も履修、コンピュータプログラム実行は授業（宿題も）全学科や卒研や教員研究や部活等を汎用コンピュータ1台で（プログラム等をマークカードやパンチカードに記載）、終業式3月前半（学年末答案返却なし）、及第点50点（学年不可4科目以上等で原級）。なかった：パソコン、ネット接続、大概の追試験や臨時休講補講、第2体育館や野球場（校内はシェアし週に複数回母智丘往復する体育部も）、推薦入試、実力養成試験、再試験（後に追認試験へ）、シラバス、4年生研究発表、保護者個別面談、情報基礎、専攻科、SHR、hyper-QU（類似のはあり）、年度内再試験、学習ポートフォリオ、PROG。後に消滅や変遷：男子は入学時に革靴と制帽も購入。履修科目で、ドイツ語（50分授業週2回を3年間）、歴史、地理、法学、哲学（先生は校歌作詞者）、政治経済。試験時間で100分も。学生間は都城弁等も（二刀流も多数）。通学に車やナナハンも。寮祭で樽みこし（神柱宮発着）。鹿児島高専との親善試合。夏にキャンプに行く部活等も。全校行事の、対面式や新入生歓迎行事、バス遠足（1台は本校所有のバス）を開校記念日（その前は休講日）に、体育祭、耐久レース（男子皆母智丘往復14km、女子半分）、予餞会（皆におやつ配布）。一部の全校行事で校歌や君が代。

野口高第2代校長弁「覚えることと考えることを間違えないように」はなぜか覚えていました。

人間の「分かる」辺りのしくみが分かることについて、ずーっと関心はありました。全く別のことで、人間並みのAIはどう作れるのか辺りも。しかし他も含め寄り付けもせず光陰矢の如しです。後者へは今日人類が何段階手前にいるかわかりませんが2022年秋に生成AIが登場し、その発展も相まった変革も様々進行中です。限界や非推奨や防衛も折々で押さえた上での学習や仕事への活用の進展も期待しますし気持ちは若いつもりですが早晚距離を置くことになりそうです。

言わば2回目の卒業です。お世話になりました。皆様のご健勝と本校の益々の発展を祈ります。



一般科目

中村 博文

退職のご挨拶

一般科目国語の吉岡です。2026年3月末で退職することになりました。2年間の短い期間ではありましたが、みなさまありがとうございました。

思い返すと「はじめて」尽くしの2年間でした。授業、クラブ顧問、担任と経験をさせていただきました。何とかやってこられたのも偏に皆様のお陰でしかありません。

さて、お後がよろしいようで、とここで締めくくりたいところですが、紙幅がまだ余っています。ここは一つ『孟子』を頼りに意を（本当は紙幅を）尽くしてみたいと思います。

孟子は、人の耳目が好むものは決まっていると述べています。たとえば、調和のとれた音楽、美男美女、などがそれに当たります。そして、心（性）にも好むものがあると言います。それは我々が通常「善」と認める行為・思想だと言います。ただ、この衆人が認める「善」というのが厄介です。あるいは、ほんとうの善なんてものはないのかもしれませんが。あるいは、我々はいつの日か絶対善の彼岸にたどり着くかもしれません。少なくとも、今はまだ「善」を疑ってもよい段階なのかもしれません。

ムッシュかまやつという歌手が「狂ったようにこればこるほど、君は一人の人間として幸せな道を歩いているだろう」（live ver）と歌っていました。各人の心の好むところを頼りに、「善」を楽しみ、それを狂ったように追求するのも幸せかもしれません。と、冗長もここまで。紙幅が尽きました。改めましてみなさまありがとうございました。



一般科目

吉岡 佑馬

卒業記念 ～機械工学科～

機械工学科の卒業生へ

5年担任 永野 茂憲

皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、晴れてこの時を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

思い起こせば、皆さんの高専生活はコロナ禍にて多くの厳しい規制に影響された5年間でした。本校でも遠隔授業システムは2年目の頃。遠隔授業など教員も大変でしたが、学生の皆さんも大変だったと思います。現在では対面で高専祭、体育競技会やクラブ活動など様々な学校行事が平常に行え、クラスの多くの学生が体育競技会や文化祭の実行委員などとして積極的に運営に携わり、準備に関わる様々な苦労やイベントを完遂した喜びと達成感を感じてくれたことと思います。

その中でも特に4年次の文化祭の研究発表では、「電動アシストシルバーカー」をテーマとして、短い準備期間にも関わらず試行錯誤を重ね、試作機の製作から実験・評価、わかりやすい資料作成と発表までを見事に成し遂げてくれました。その結果、文化祭での優勝、更に、第4回都城高専地域交流・研究発表での深山会大賞を受賞したことは、このクラスとして大きな成果と自信になったと思います。ここで培った研究への姿勢は、5年生の卒業研究にも生かされていました。また、技術者として社会に出る皆さんは、チームで1つのプロジェクトに取り組む機会を今後経験すると思います。チームで計画的・効率的に物事を進めるにはどうすれば良いのか、それを先んじて経験したことは今後の大きな糧として生きると思います。

4年次の終わりには、例年どおり関西方面への工場見学も実施できました。実質の修学旅行として、多くの思い出に残る経験ができたことと思います。（写真参照）

5年次の進路選択においても、比較的スムーズに進路が決定していったように思います。好景気の影響などから採用市場が活況なこともあります。ありますが、それでも自身で企業や大学・専攻科への応募を決め、履歴書などの準備、面接練習などで多くの不備を指摘されつつも訓練・改善

を行い、試験に臨んで勝ち取った結果です。当初の志望先には残念ながら届かなかった学生もおりましたが、クラス全員の進路が決まり、人生の大きな岐路において、目覚ましい成長を遂げたと感じます。

最後になりますが、健康には十分に留意し、皆さんの今後の人生が充実したものであることを祈っています。そして、関わった全ての人や物事への感謝の気持ちを忘れずに、未来へ羽ばたいてください。皆さんの今後の活躍を期待しています。



卒業記念 ～電気情報工学科～

親愛なる皆さんへ

5年担任 白濱 正尋

親愛なる電気情報工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、親の愛なる皆さんの保護者の皆さまには、これまでの温かいご支援に感謝申し上げます。そして、5年生の皆さんも、親に、これまで育てていただいた感謝の気持ちを伝えてください。再度、親の愛なる皆さんが無事に卒業の日を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

さて、皆さんと初めて会ったのは、1年生の電気情報工学概論の授業でした。そこでは、いくつかの疑問、質問を問いかけてみました。「電気とは？情報とは？工学とは？何か？」という質問、疑問から、電気の歴史的なことを皆さんと考え交え、話し合い（愛）しました。そして、私は、皆さんがこの高専5年間で、その答えを見つけると予言しました。今、皆さんはその答えが見つかりましたか？皆さんはそれぞれの答え「電気とは？情報とは？工学とは？何か？」を見つけ、親愛なる先生方に出会い（愛）、感動し、身につけたと思います。

そして、2年間担任として皆さんと過ごしてきました。楽しい思い出もできました。4年夏休みの1泊2日の福岡研修旅行（写真2）。4年研究発表会。4年春休みの関東研修旅行（写真3）などなど。

ここで、皆さんの卒業記念にあたり、何か気の利いたカッコいい言葉、将来役に立つようなことをお話ししたいと思います。（令和6年度高専祭の植松電機社長の講演の請負ですが、、植松努様に感銘を受けました。）社会に出ると、誰しも一度は壁にぶつかり、悩み苦しむことがあると思います。そのような時には、誰かが助けてくれます。誰かが助言を、アドバイスをきつてくれます。それは誰か？その誰かは、自分の最も大事な人です。その人は、かけがえのない人です、かけがえのない人になります。その身近な人、親、兄弟、友人、いろいろな人に尋ねてください、相談してください。そして話し合い（愛）をして下さい。そして、親愛なる大事な人の幸せを願い、感謝してください。そして、少しずつ歩みを1歩1歩進めてください。そして、実りある、充実した、楽しい人生を築いてください。



（写真1）4年校内研修

改めまして、ご卒業おめでとうございます。皆さんの未来が、一生が、希望に満ちたものでありますよう、心よりお祈り申し上げます。くれぐれも無理をせず、

日々、一日一日当たり前に過ごしてください。実家に帰るときは、都城高専にちょっと寄って顔を出してください。お世話になった先生方に、元気な姿、立派になった姿を見せてください。それではまたお会い（愛）しましょう。お元気で。



贈呈 ～卒業記念品～

私の親愛なる人物、もの、数式、言葉を贈ります。

- ・デカルト先生
「コギト エル ゴスム」 think I (愛) am.
- ・オームの法則 $V=IR$ LoVe=愛がある。
- ・オイラーの式「オイラーさん i (愛) をありがとう」

$$e^{-i\pi} + 1 = 0$$

- ・フーリエ級数展開

$$f(x) = a_0 + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \cos \frac{n\pi x}{L} + b_n \sin \frac{n\pi x}{L} \right)$$

- ・ラプラス変換

$$F(s) = \mathcal{L}[f(t)] \quad s = \sigma + j\Omega$$

- ・植松電機社長
「思うは招く。夢（愛）があれば何でもできる。」
- ・ディラック先生
「物理法則に数学的美（愛）を求めよ。」
- ・シュレディンガーの方程式、エルミート演算子

$$i\hbar \frac{\partial}{\partial t} |\Psi\rangle = H |\Psi\rangle \quad \langle \alpha | A^\dagger | \beta \rangle = \langle \beta | A | \alpha \rangle^*$$



（写真2）福岡研修旅行



（写真3）関東研修旅行

卒業記念 ～物質工学科～

卒業する皆さんへのお願い。

5年担任 岡部 勇二

物質工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。物質工学科で学ばれた皆さんの5年間は、どのようなものだったでしょうか？私は4年生から5年生までの2年間の担任ですので、1年生から3年生までの皆さんの様子を詳しくは存じませんでした。担任として皆さんを受け持つ事になった時は、1年生の頃は40名いたクラスメイトの内、一緒に3年生になったのは30名というクラスを、私のような経験の浅い者が全うできるのかどうかと一抹の不安を持ってスタートしました。しかしながら2年間、担任として皆さんと過ごす内に、最初に私が覚えた不安は、皆さんに対する私の誤解によるものだったことに気付きました。ここで私が卒業を迎える皆さんに伝えておきたいことは、皆さんがこれまでに都城高専を卒業した多くの学生達と何も変わらない、普通の高専生であるということです。中学生の頃からコロナ禍を経験し、本校に入学後も不自由な環境で学ばなければならなかった皆さんが、以前の学生にはない問題を抱えているのではないかという勝手な先入観を私は持っていました、誤解でした。もちろんコロナ禍によるハンディキャップがあることは否めないと思いますが、皆さんであればすぐに取り返せると思います。皆さんも校内研修や企業研究セミナー、インターンシップや就職活動などを通じて、高専の卒業生がいろいろな現場の第一線で活躍されていることをよくご存知だと思います。私も皆さんと一緒に本校の卒業生が頑張っている様子に触れ、何度も誇らしい気持ちになりました。そのように誇らしく思える卒業生達も、私の記憶の中では普通の高専生でした。また知識や技術だけでなく、高専生同士の強い絆と逆境への耐性が高専生の強みだと私は思います。高専で培われたポテンシャルを活かせば、数年内に皆さんも立派な社会人となって、私たち教職員や皆さんの後輩を刮目させてくれると信じます。そのために高専を卒業した後も学び続ける姿勢を持って下さい。私は27歳から高専で授業や学生実験の指導にあたってきました。担当科目である物理化学でも、未だに知らなかったことがある事に気付くことが、年に数回あります。一方で知識が増えれば増えるほど、担当の科目や仕事の内容に

限らず、さまざまなことに見通しが効くようになります。皆さんにも承認欲求はあると思いますが、仕事で承認されることでも欲求は満たされると思います。また仕事以外のことでも興味のある事について学ぶことで、認めてくれる人が周りに集まってくると思います。高専生活で勉強に疲れ果てたと感じている人が多いかもしれませんが、卒業したら自発的に学べる何かを探してください。卒業後の皆さんのご活躍を心から祈ります。



未だにウクライナ侵攻は終わりが見えず、ガザ地区を巡ってイスラエルとパレスチナが戦争し、タイとカンボジアでは国境地帯で軍事衝突が起こり、中国は台湾の周りで軍事演習し、とうとうアメリカはベネズエラを攻撃し、世界情勢は緊張が高まる一方で先が見通せません。また日本では株価が堅調に上昇し、日経平均株価は50,000円を超えて、賃上げに伴う個人消費の回復により景況感はプラスのようですが、米や卵の値段は高止まりし、最近の物価の高騰のために景気の回復を実感しづらい状況です。AIが身近になり、皆さんも活用をしていると思いますが、AI需要の急増でメモリが高騰し、スマホやパソコンも価格が上昇する見込みです。地球温暖化は進む一方で、回復は困難で、私たちが環境に適応していく他に道がなさそうです。このように世の中はトレードオフの関係が顕著になっているように思います。あちらが立てばこちらが立たない、二律背反の世の中では独りで成功することは至難の業だと思います。高専の卒業生として承認し合い、互いに協力し、助け合いながら社会の荒波に立ち向かってください。



卒業記念 ～建築学科～

卒業に寄せて 2つの卒業と1つの願い

5年担任 小原 聡司

5年建築学科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんはもちろん嬉しいでしょうが、私自身も長年勤めた高専教員を“卒業”するので、今年の卒業式は一段と感慨深いものがあります。しかしそれ以上に、このクラスで定年前に最後の“担任業務”を務められたことの感謝感が上回ります。

個人的な話で恐縮ですが、前回(約10年前)、担任として学生を送り出してから、その後は専攻科長や学科長をズルズルと引き受けるうちに、「今後は高学年(4、5年生)の担任をする機会がないまま定年になってしまうのではないか」と危惧していました。高専教員にはいろいろな仕事や業務(校務)がありますが、なんといっても一番楽しくやり甲斐のあるのは“担任業務”です。自分の一挙手一投足一軽口がダイレクトに反映され、受け持つ学生達と一緒にいろいろ思い悩み、ともに解決していくという担任業務は、広く学生や保護者を相手にしながらあまり手応えのない業務を淡々とこなす〇〇長職よりはるかに楽しくやり甲斐があります(個人の感想です)。

今回、皆さんの5年間の高専生活の最後だけ、しかも短期間の代行でしたが、再びこの業務に就けたという訳です。

このクラスとのつきあいは入学式翌日の学科長による学科紹介から始まりました。1年次から設計演習の授業で一気に親密になりましたね。当時の担任の中島(美坂)先生のご指導もあって全員2年生へ進級したのは何年か振りの快挙でした。しかし、その後は4年次に環境工学の授業で再会するまで、このクラスにどんな学生達がいたかをほとんど忘れていました。3年次に浅野先生の担任代行でSHRを代行する機会もありましたが、みんなどんどん顔つきも態度も髪の色も変わっていたので、正直誰が誰やら分からなかったことを白状します。

しかし4年次に建築環境工学の授業で再会すると、いきなり前期中間試験で過去にない最高の成績を収めてくれたので、「おやっ？このクラスは従来とひと味違うぞ」と感じました。そして予想の外れることの多い私には珍しく、その印象は今も変わっていません。

高学年になってからのこのクラスは教室に少人数でいても、全員が揃っていても、なにかしらとても楽しい話題や行動で盛り上がっている印象を受けました。4年時の研究発表も5年時の応援団演舞でも、とてもよいパフォーマンスを見せてく

れたのはむべなるかな、です。

このように親しみと知性と人柄のよさを、クラス全体として醸し出してくれるクラスは、長い私の高専生活でもそうそうあるものではなく、最近では5A教室に行くことがいつも楽しく感じられました。



もし自分が皆さんと同年代であれば、個人的に親しくなりたいと思う魅力的な人が多かったですね。そしてできれば皆さんに関係する業務は全て引き受けたいと思うほどでした。実際には進路関係は大岡先生に、また出欠状況チェックは牟田先生に、それぞれ全面的に依存することでこの半年の担任業務を続けられたわけです。このお二人には本当に助けていただいたと感謝しかありません。

さて、このクラスには進学する人もいますが、皆さんはいずれこれから実社会へ羽ばたきます。身につけた専門知識と皆さんの頭脳をもってすれば建築に関する各方面で大いに活躍することでしょう。しかし皆さんの活躍ぶりを私が直接聞くことはもうありません。そこで、現場を去る人間として、私心なく公正な立場から一つだけお願いします。皆さんの中から、是非とも高専、それも本校建築学科の教員になるような人が出て来て欲しいのです。高専の卒業者として社会で即戦力となり、経験を経たベテランとして第一線で活躍して働くことはもちろん意義深いことです。しかし一方で次代の建築業界を担う若者を、丁寧に辛抱強く導き育てて欲しいとも思うのです。昨今、教員の業務の困難さはしばしば話題になりますが、本校ではさほどでもないと思います(個人の感想)。むしろ、成人前後の若い人達と楽しく仕事ができる環境ではないでしょうか。少なくとも私自身はずっとそのように感じながら学生と向かい合ってきたつもりです。その私が好ましく思い、かつ親しみを覚える5Aの皆さんであればその方面に最適と思うのですが、...。いかがなものでしょう？今すぐでなくとも、何年か何十年か先でなくても実現すると嬉しいんだけどなあ。

素晴らしい人生に期待を込めて

専攻主任 瀬川 裕二

機械電気工学専攻（機械系）2年生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

君たち専攻科2年生が本科3年生のときから担任を務めてきました。つまり、5年間同じ担任だったということです。ですから、本科生であれば1年から5年まで同じ担任だったことになります。こんなことはなかなかないですね。こんなことは私自身もないだろうと思っています。5年間も同じ担任で新鮮味に欠けるところもあったかもしれませんが、特に専攻科での進路活動ではお互いよく分かっているからこそスムーズに進められた部分はあったと思いますので、そういう点ではよかったのではないかとと思っています。

君たちは就職ではなく大学進学でもなく専攻科進学を選びましたが、この2年間はどうかだったのでしょうか。専攻科進学を選択する際、様々な経緯や理由で選んだわけですが、この2年間で自分が思い描いていたような成長は感じられたのでしょうか。本科生の頃よりも知識がついた、自信が持てるようになったのであれば、専攻科に進学した意味はあったのではないかと思います。

専攻科では、勉学に励みながらも研究により一層励まなければならない環境には苦勞することも多々あったことと思います。特に一番苦勞したのは学協会での研究発表ではないでしょうか。卒業研究でプレゼンは経験していますが、学協会となると同じ分野のしかも一流の研究者の前で発表するので、準備しておかなければならないことが多く、非常に苦勞したのではないかと思います。また、卒業研究でのプレゼンにはない雰囲気はかなり緊張した人もいたと思います。うまくいかなかった人もいたかもしれませんが、その経験は今後の君たちの大きな力になるはずです。

さて、専攻科を修了して就職する人もいれば進学する人もいます。大学院に進学する人は新しい環境での研究に従事することになります。専攻科で従事した研究と全く同じということはないので、新しい研究に着手すれば一から学びなおす部分は多く、論文もたくさん読まなければなりません。積極的に学協会で発表してさらに経験を積んでください。また、入学して1年が経てば、すぐに進路活動となります。あつと

いう間にやってきますから、慌ただしい大学院生活を送ることになるものと思います。学生時代にしか遊べないこともありますから遊ぶことも大事ですが、勉強や研究をおろそかにせず、先をしっかりと見据えて充実した大学院生活を送ってください。



就職する人は一人の社会人として非常に多くのことが求められます。学生時代と違って責任も伴うことが増えます。仕事に関しては、最初はわからないことばかりで、悩まない人はいないと思います。それは誰しもが通る道です。新人はわからないのが当たり前とよく言われます。新人のうちにわからないことは先輩、上司に聞いて自分の知識として身につけてください。それを繰り返していくうちに仕事ができるようになります。

最近は何かわからないことがあるとインターネットで検索したり、AIに尋ねたりする人も多いのではないかと思います。インターネットやAIの情報は必ずしも正しいとは限りません。何も知らない人が正しい判断を最初からすることはできないので、その使い方には注意が必要です。エントリーシート等の作成時に私からChatGPTを鵜呑みにしないようにと注意された人もいましたよね。インターネットやAIばかりに頼るのではなく、人間関係の構築のためにも先輩や上司に聞くことは大事です。君たちは大きな夢、可能性を秘めています。その夢や可能性を現実のものにするのは自分自身でしかできません。粘り強くコツコツと力をつけてください。

これから長い人生を生きていく中で、自分自身を大事にすることはとても大切です。体調には十分気をつけてください。学生時代は一生懸命だけで乗り切れたかもしれませんが、社会人になるとそうはいきません。ONとOFFを自分で切り替えて過ごしてください。何かの折に、学校に顔を出してくれると嬉しいです。ここで携わった人は皆、君たちに期待しています。君たちが都城高専を出てから更に飛躍され、幸せな人生を送ることを願っています。

修了記念 ～機械電気工学専攻～

問い続ける情熱を未来へ

専攻主任 白井 昇太

機械電気工学専攻（電気系）2年生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。また、保護者の皆さまには、これまでの温かいご支援に感謝申し上げますと共に、心よりお祝い申し上げます。

私は本校に赴任して4月で丸20年を迎えますが、今年度初めて専攻主任を担当させていただきました。専攻科は2年の間に必要単位を取得するだけではなく、毎週の創造デザイン演習に加え、インターンシップや企業説明会への参加、就職活動・大学院受験をこなしながら、各研究室では本科生の相談相手にもなり、そして自身の研究活動も進め、学会発表を行い、修了論文をまとめ学位を取得するという、かなりハードなタスクをこなしています。このようなハードな日々の中でも、常に前を向き困難を乗り越えていく姿に感服すると共に、専攻主任として共に進むことができたことを大変嬉しく思います。

皆さんがこれまで学んできた電気・情報の分野は、非常に進化の速い分野です。特に人工知能は、わずか数年のうちに私たちの生活に深く溶け込み、すでになくはならないツールの一つとなっています。現在の人工知能は、画像認識や音声認識、翻訳など、特定の分野やタスクに特化したものが主流ですが、今後は汎用人工知能（AGI：Artificial General Intelligence）や人工超知能（ASI：Artificial Superintelligence）の実現も近いと言われています。AGIは複数のタスクに対応できる汎用的な能力を持ち、データや経験から学習し、新たな情報や知識を踏まえて、状況に応じた適切な判断を行うことができるようになります。さらにASIは、未知のタスクや複雑な問題であっても、自己学習と自己進化によって解決できるとされ、あらゆる知識を効率的に獲得し、応用する存在になると考えられています。これまでの時代においては、自らの知識を基に、他の技術者と協力し、時には競い合いながら問題解決を行うことが求められてきました。しかしこれからの時代は、それに加えて、人工知能という新たな技術と共存し、時には向き合いながら進んでいく必要があります。皆さんは、そのような非常に難しく、同時に大きな可能性を秘めた時代を生きていくことになります。では、これまでの勉強や経験が無意味になるのかと言えば、決して

そうではありません。「他者の気持ちを理解し、幸せを追求するために考え続け、最適な解を求めるため努力し続けること」は、人間にしかできない大切な営みだと思います。その視点を大切にしながら、専攻科修了後もさまざまなことに興味・関心を持ち、多くの人と関係性を築き、自分本位ではなく、皆が幸せになるために何ができるのかを考え続けてください。そして、人工知能という素晴らしいツールを上手に使いこなせる技術者へと成長してほしいと願っています。

これまでの日本社会では、歴史的な文化や価値観の中で、従順さや規律、集団主義が重んじられてきました。その影響もあり、失敗を許さない文化が根付いてきた面があります。また近年では、失敗をあまり経験させない教育が進み、その結果として、他者の失敗を許容しにくい社会になっているとも言われています。しかし、これからの時代においては、失敗を受け入れ、前向きに捉えながら挑戦し続けなければ、新たなイノベーションは生まれません。イギリスの首相であったウィンストン・チャーチルは、

「成功とは、情熱を失わずに失敗を重ねることである。」

と述べています。失敗の中には、必ず次につながる知見があります。失敗をネガティブに捉えるのではなく、成長の糧として受け止め、挑戦を恐れずに日々積み重ねていってください。その先に、きっと素晴らしい未来が広がっているはずです。

改めまして、専攻科修了おめでとうございます。皆さんの未来が希望に満ちたものでありますよう、心よりお祈り申し上げます。



修了記念 ～物質工学専攻～

勇往邁進

専攻主任 野口 大輔

本日ここに学士の称号を得て、修了の時を迎えられた皆さんに、心からのお祝いを申し上げます。また、皆さんの勉学を支え続けて下さったご家族の皆様に心よりお祝い申し上げます。

修了する皆さんは、今この時、都城高専に入学された頃を思い起こされれば、膨大な知識と技術が身についている今の自分に改めて気付かれるはずです。

今、修了される皆さんを送り出すに当たって、私が、皆さんに期待していることは、豊かな自然環境にある都城高専で習得された知識、技能をもって、皆さんが主体となる21世紀に、真の市民社会を実現するための課題を発見し、解析し、対策を企画提案し続けてくれることです。そして、進んで評価を求め、一層の進歩を期する心を持ち続けてくれることです。

広くは世界の、近くは私たちの生活する地域社会の現状を見る時、多様性ではなく、多くの混乱の中に、一刻一刻が過ぎつつある事を憂います。

皆さんが旅立とうとされている今の社会は、人類が憧れ続けてきた、真の平和を具現する市民社会を作り出すための、基本的な思想が見え難い状況にあります。こうした混沌の環境にあつては、自分とは異なった価値観や考え方に遭遇することは屡であろうと思います。その時、一步立ち止まり、素直に耳を傾け、自他の異なる点に思いをめぐらす、心の余裕を持ていただきたい、他を認める謙虚さや、深い思慮を持って対処してゆくことのできる人間であって頂きたいと、願っています。他者についてよく知り、そして自らを省みる心を基本として、皆さんの身につけている知識、技能を総動員すれば、多くの困難を克服できるばかりでなく、皆さんの手で、皆さんの、理想の21世紀は、創り出せると信じています。

このたび物質工学専攻を修了する学生の数は、7名になります。うち6名が大学院(東京科学大学大学院、大阪大学大学院、九州大学大学院、名古屋大学大学院)に進学し、1名が企業(中外製薬工業株式会社)へ就職します。それぞれ異なった道へ進んで行くことになりますが、それはある意味、皆さんに新たな枠を与えるものであるといえます。ここで私は敢えて皆

さんに、「枠を超えて可能性を掴め」という言葉を送りたいと思います。自らの枠を超えて、一步踏み出す勇気をもって欲しいと思います。それが新たな可能性を与え、自分を鍛え、新しい優れた仲間を与えてくれるに違いありません。行き詰まった時には母校を訪問し、恩師に会うなり、新しい出会いの場で得るであろう多くの友人に相談するなどして、雄々しく目標・夢に向かって進んで行ってもらいたいと思います。

みなさんのこれからの人生が、いい人生であることを祈っています。また、健康には、くれぐれも留意され、全世界の何処にしようとも、あなた方の21世紀を、あなた方自身の手で創り出すための活躍をされることを強く期待します。

ご修了おめでとう。



修了記念 ～建築学専攻～

輝かしい未来に向かって

専攻主任 大岡 優

建築学専攻修了生の皆さん、誠におめでとうございます。また、保護者の方には心よりお祝い申し上げます。修了後は全員、企業に就職し社会に飛び立つこととなります。本科生の頃から長い間皆さんと接してきましたが、授業や研究、課外活動など色々な物事に真摯に取り組む皆さんを見てきて、修了後の皆さんには大変輝かしい未来が待っているものと確信しています。

皆さんは、都城高専の本科1年生に入学してから専攻科を卒業するまでの間、都城高専という同じ学校で過ごしてきました。皆さんは、青春真っ盛りの15歳から20歳過ぎまでの時期をこの都城高専で過ごしたことになります。このような経験ができるのは、まさに高専ならではの思いです。この時期の思い出というのは、人はいつまでも鮮明に覚えているもので、私もたまにこの頃を懐かしく思い出すことがあります。そういう意味で、高専生活は皆さんの人生の本当に大きな一部になったことと思います。修了にあたって、高専生活を振り返ってみるといかがだったでしょうか？都城高専の建築学科・建築学専攻に入学して良かったと思っていますでしょうか。その答えが出るのは今ではなく、数年後・数十年後かもしれませんが、その時に都城高専に行ってて良かったと思えたのであれば、皆さんの人生の大事な時期に関わることであった教員にとってこれほど喜ばしいことはありません。

私が皆さんの授業を受け持ったのは本科3年生からでした。測量の実習で皆さんとフィールドワークをするのが私も大変楽しかったです。5年生では授業を多く担当し、専攻科生になってからも実験や専攻主任として皆さんと大いに接することができ、私自身、大変貴重な時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。

さて、皆さんはこれから本校専攻科を修了し、社会に出ることになります。専攻科を修了した場合、年齢的には四年制大学を卒業する人と変わりはありません。ただ、皆さんには、四年制大学の卒業生以上に、社会で大きな力を発揮する素養が備わっているという自信を持って欲しいと思います。本科・専攻科での授業や実験はもちろんのこと、皆さんは、それぞれの研究を学会等の学外で発表してきました。一般的には、学外発表は早くて大学院の修士課程で行うことが多いかと思いま

す。2年以上も早く学外発表を行った皆さんは、それだけで貴重な経験をし、また優れた研究を行ってきたことになります。学内での発表も聞いていると、発表資料の作り方やプレゼンテーション能力についても大変高い技術が身についていると感じました。



社会に出てからは、「その時と場所と場合を考えた行動をする」「大事な仕事は人に任せず必ず自分で行う」「行動する前に先のことを考える」ということが大事になってきますが、日々の様子から、皆さんには既にこれらを実行できる能力が十分に備わっていると感じていますので、自信を持って社会に飛び立ってもらえればと思います。

超高齢社会の日本においては、若い労働力の減少に伴い、建築業界に目を向けると、空家問題や建物の老朽化、インフラの老朽化などといった大きな問題がありますが、皆さんであればこれらの問題に果敢に取り組み、より良い社会をつくってくれるものと信じています。

最後になりますが、私が人生で最も大切だと思うことについて書きたいと思います（卒業生・修了生向けに毎回書いていることです）。それは、人と人との「縁」です。この都城高専で皆さんと出会うことができたのも、大事な人の「縁」だと思います。これはもちろん、クラスメートについても同じです。人生とは、人と人の「縁」を通して誰と出会うかで大きく変わってきます。私は、この「縁」を非常に大切なものと考え、これまで関わってきた人・今関わっている人に出会えたことに感謝しながら生きることこそ、より良い人生を送るために必要なことだと考えています。皆さんもこの人との「縁」を大事にし、これから長く幸せな人生を送ってくれるものと信じています。

数年後、精神的・社会的にさらに逞しく成長している皆さんに会えるのを楽しみにしています。

卒業記念

5年間元気いっぱい！

機械工学科 5年 種子田 峻聖



都城高専に入学して5年の月日が経とうとしています。本当にあっという間だったと感じています。

都城高専で過ごした日々を思い返すとたくさんの思い出で溢れかえっています。入学当初は慣れない環境に不安もありましたが、いつの間にか気づけば周りに仲間がいて、気づけば毎日のように笑っていた気がします。特に、男ばかりのクラスだったので、とにかく元気すぎて、うるさくて、教室の空気の質が悪い日すらあった気がします。夏場なんて、正直ちょっと臭かったかもしれませんが、それすら今では笑い話です。

放課後になると、誰かの一言をきっかけにどうでもいい話が始まり、気づけば全員が参加して盛り上がっているというのがいつもの流れでした。課題やレポートで追い込まれていても、そういう時間があったからこそなんとか乗り越えられたのだと思っています。真面目な話をしようとしても、なぜか最終的にふざけた雰囲気になるのが私たちらしくて、それがこのクラスの一番好きなの

ころでした。

もちろん、楽しいことばかりではありませんでした。悩んだり、うまくいかないこともたくさんありましたが、周りに何でも言い合える仲間がいて、くだらないことで笑い合える時間があったからこそ、気持ちを切り替えて前に進むことができました。特に応援団で過ごした時間は忘れられません。一緒に声を出し、汗をかきながら全力で練習に取り組んだ日々は、かけがえのない経験です。応援演舞では悔しい結果に終わりましたが、競技と団看板の部で優勝できたことは、本当に嬉しかったです。喜びも悔しさもひっくり返して、この時間がいかに特別だったかを改めて実感しています。

こんな機械工学科で過ごした日常こそ、自分にとって何より大切な宝物です。これからはそれぞれの道へ進みますが、このクラスで過ごした時間は一生忘れません。5年間支えてくれた友人や先生方に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

奇跡の世代

電気情報工学科 5年 松田 元気



都城高専に入学して早いもので5年もの月日が流れようとしています。卒業まで残り数ヶ月に控えた今、5年間があったという間に過ぎたように感じています。

私たちの学年は新型コロナウイルスの感染拡大が最も激しく、世界が混乱の渦中にあった時期に入学しました。入学して1年目は1年のほとんどが自宅待機や遠隔授業でクラスメイトと実際に顔を合わせることはできませんでした。しかし、遠隔で与えられた課題に対して、クラスで通話しながら取り組み、一致団結したのは今となってはいい思い出です。2年生からは通常どおりの対面授業が再開し、寮生も高千穂寮に戻ることができるようになりました。3年生になると、クラスメイト同士の仲も深まり、新しいクラスTシャツの作成や文化祭では学科開放の一環として協力してスロットゲームを作り上げました。4年生では高学年としての自覚が芽生え、周囲の空気感も変化しました。インターンシップや大学のオープン

キャンパスへの参加を通じて、各々が自分の将来、そして進路に対して真剣に向き合い、切磋琢磨する様子が印象的でした。現在、5年生となり、私たちは学生生活の集大成となる卒業研究に日々いそしんでいます。研究室での試行錯誤を繰り返しながら、最後の1年を大切に過ごしてきました。

私たちはこの5年間、多くの困難と向き合い、その度に協力し結束を強めてきました。この経験と絆はこれからの人生で必ず大きな支えになるはずです。春からは、各々が選んだ道を歩み始めます。きっと壁にぶつかり、立ち止まることもあると思います。しかし、そんな時は5Eのみんなも頑張っているのだと思い出し、それを糧に乗り越えられると思います。就職、進学で多忙な日々が続くとは思いますが、またみんなで集まりましょう。みなさんの歩む道に幸多からんことを祈っています。

卒業記念

笑顔が支えてくれた五年間

物質工学科 5年 上野 桂志郎



五年間の高専生活は、長いようで振り返ると不思議と短く感じます。入学した頃の自分を思い出すと、期待と不安が入り混じり、毎日をこなすだけで精一杯だったのを覚えています。それがいつの間にか、都城高専で過ごす時間が日常となり、忙しい毎日も含めて自然と自分の生活の一部になっていました。

実験や課題、テスト、行事に追われる日々は決して楽ではありませんでした。思うように結果が出ず悩んだことや、時間に追われて余裕をなくしたこともありました。それでも、休み時間の何気ない会話や、帰り道で交わしたくだらない話が、心を軽くしてくれました。特別なイベントでなくても、友達と笑い合えた瞬間が、次の日への力になっていたと感じます。

友達と過ごした時間は、楽しいことばかりではなく、意見がぶつかったり、すれ違ったりするこ

ともありました。しかし、その一つ一つを乗り越える中で、相手の気持ちに立つこと、自分の考えを伝える大切さを学ぶことができました。五年間という長い時間があったからこそ、成長できたと感じています。

また、私たちを支えてくださった先生方や家族の存在も忘れることはできません。自己管理を徹底することや、話し合いで学生を主体にして見守ってくれていたことの意味を、今になって実感しています。日常が当たり前が続いていたこと自体が、どれほど恵まれていたかを感じます。

これから先、それぞれ違う道に進み、忙しさの形も変わっていくと思います。それでも、この学校で過ごした五年間と、その楽しい思い出の数々は、きっとこれからの自分を支えてくれます。都城高専で出会えたすべての人と時間に、心から感謝しています。

5年生を振り返って

建築学科 5年 里岡 慧



この一年を一言で表すなら、「とりあえず走り切った」です。中でも最大の事件（良い意味で）は、体育祭の応援団優勝でしょう。夏休み前からミーティングを始めましたが、最初に決めたのは演舞よりも集合時間でした。夏休みに入ってようやく演舞が決まり、練習がスタート。細かい振りの違いで意見がぶつかったり、「その動き昨日と違うくない？」という記憶改ざん事件が起きたりと、なかなか平和とは言えない日々でした。練習がしんどくなって人が減ることもありました。なぜか最後に残るのはいつものメンバー。少人数でも「まあ、やるか」と集まり、気づけば何時間も練習していました。

夏休み明けには後輩たちが加わり、問題の数も人数分増加。しかしそのたびにミーティングを重ね、演舞はどんどん進化。本番では全員が限界突破の声量で挑み、過去一番うさ…いや、迫力のある演舞が完成しました。その結果、目標だった演舞の部優勝を達成。努力はちゃんと報われるんだと実感しました。

一方、五年生には卒業研究という試練があります。授業が少ない＝暇と思われるかもしれませんが、私はコンクリートと一生向き合っていました。制限付きの条件で圧縮強度を高めるため、来る日も来る日も実験。夢にまでコンクリートが出てきたおかげで、県のコンクリートコンテストでは優勝できました。現在は卒業論文と死闘中ですが、この一年を胸に、なんとか卒業したいと思います。



修了記念

高専生活を振り返って

機械電気工学専攻 2年 堀切 風音



入学から7年間にわたる高専生活がついに終わります。不安だらけで入学したはずですが、まさか小学校より長い期間、高専で過ごすとは未だに自分でも理解できません。振り返ると、多くの技術を学び、多くの変化を経験した7年間でした。

入学当初はテストに追われ、明け方まで机に向かって勉強する日が続いていました。2年生に進級するタイミングで新型コロナウイルスの感染拡大により遠隔授業が始まりました。新たな授業体制に苦戦しながら過ごす日々が2年間程続きましたが、今では広く浸透しつつある在宅ワークのような制度につながるいい学びになったのではないかと個人的には感じております。コロナによる規制が緩和され、研修旅行や学年の壁を超えた交流の文化祭などの行事も再開されました。また、体育祭の最後の応援演舞では、なぜか機械科だけインフルエンザが蔓延し、12月に演舞をしたことも今となっては印象深い思い出の一つです。

専攻科の2年間では、基礎的な技術や知識をさらに深め、科目同士のつながりを意識しながら、高度な課題や実験に取り組む姿勢が身につきました。

後輩の指導や研究活動、他専攻との共同作業を通して、より高い専門性を養うことができたと感じております。インターンシップには合計3週間参加し、様々な業種・職種に触れ、自分自身の将来をより具体的に考える貴重な体験でした。また、学外の学会で研究発表を行い、他の大学の学生や教授の発表を通して、自身の研究に対する姿勢を見直すとともに、多くの学びを得ることができました。

7年間の高専生活を終え、4月から私は自動車の完成車メーカーに就職いたします。急速に変化する現代社会の中で多くの経験を重ねながら、自分なりの軸を見失わずに、技術者として学び続けていきたいと思っております。また、友人や先輩・先生方から学んだ人としての在り方などを大切にしながら少しずつ歩んでいけたらと思っております。今後、また皆で集まり、思い出話に花を咲かせられる日を心待ちにしております。最後になりますが、丁寧なご指導賜りました先生方、学校生活をともにした友人、いつも味方でいてくれた家族に心から感謝申し上げます。

専攻科修了にあたって

機械電気工学専攻 2年 鳥越 裕介



今日、7年間の高専生活を終えようとしています。人生の約3分の1を高専で過ごしてきた今、私の心にあるのは「短かった」という不思議な感覚です。それは、この学び舎での毎日がいかに刺激的だったかを物語っている気がします。

専攻科では他学科と協力してモノを製作する創造デザイン演習が私を大きく変えました。消極的な私が、回路設計から部品の選定など、プロジェクトの根幹を担う役割に挑戦しました。専門外のメンバーに技術的な内容を説明したり、期限に合わせて調整を行ったりする中で、自分の役割を全うする責任感と、チームで一つの形にする達成感を味わいました。この経験を通じて、「まずは自分で動いてみる」という主体性が身につき、自分に自信を持てるようになったことは、私にとって大きな転換点となりました。

私は専攻科修了後の進路について、IT系の企業への就職を選択しました。IT業界を選んだ理由は、システムやソフトウェアを通じて、様々な業界の課題を解決し、人々の生活をより便利にアッ

プデートしたいと考えたからです。特に、コロナ禍で痛感した「非対面でも繋がれる仕組み」の重要性や、その基盤を支える技術に魅力を感じ、自分もその作り手として社会に貢献したいと判断しました。

学生とは異なり、社会ではより大きな責任の重さが問われますが、都城高専で培った粘り強さと、演習や学会発表で得た自信を胸に、その重圧を成長の糧に変えていきたいと考えています。就職後は環境が激変するため不安もありますが、まずは自分にできることから着実に、エンジニアとして歩みを進めていきたいです。

4月からはIT業界という新しい舞台に立ちます。社会人としての責任を胸に、都城高専の卒業生であることに誇りを持って、自分らしく挑戦を続けていきます。最後に高専生活でお世話になった先生方、どんな時でも私を支えてくれた家族に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

修了記念

専攻科修了にあたって

物質工学専攻 2年 渡部 一心



当時15歳の私は、技術者への漠然とした憧れを抱きながら高専の門を叩きました。それから7年の時を経て、私は研究の道への確固たる志を胸に、高専を旅立ちます。非常に目まぐるしい7年間でしたが、その分充実した日々を過ごすことができ、大きく成長できたと実感しています。

特に専攻科での2年間は瞬く間に過ぎ去りました。専攻科は本科とは異なり、研究がメインの生活になります。新しい研究テーマに心を躍らせて専攻科での生活をスタートさせましたが、その期待は長く続きませんでした。思うように実験がうまくいかず、失敗に失敗を重ね、全く前進できない日々焦りを感じ、研究の厳しさを真っ向から痛感しました。しかし多くの研究者が口を揃えて言うように、研究はうまくいかないもので、そこから何か一つでも見出すことができればそれは大きな進歩となります。私はそれを信じて、失敗ばかり続いている時こそ落ち着いて自分自身を俯瞰し、とにかく焦らずに、失敗は必要なフェーズだと自己暗示しながら、粘り強く試行錯誤を繰り返

返しました。すると、その時は夢中で気づきませんでしたでしたが、ふと振り返ると以前できなかったことができるようになっており、わずかな進歩でも大きな喜びとなりました。当初目標にしていた進捗には届きませんでしたが、それ以上に、この専攻科での研究生活で得た失敗を糧にする力は自分にとって何にも代え難い財産です。

私は修了後、大学院に進学し研究を続けます。これまで以上にシビアに結果が求められる厳しい環境下で、数多くの困難に直面すると思いますが、どのような状況においても、高専生活で培った精神力と経験が私の揺るぎない基盤になると確信しています。高専生としての矜持を忘れずに、たゆまぬ挑戦を続け、邁進していきます。

最後に、未熟な私たちを最後まで親身にご指導いただいた先生方、共に切磋琢磨した友人、そして支えてくれた家族に深く感謝を申し上げます。皆様のおかげでここまで来ることができました。本当にありがとうございました。

学生生活を振り返って

建築学専攻 2年 勝田 悠日



気づけば9年。小学校と中学校の義務教育と同じ年月をこの高専で過ごしました。実家で過ごした時間よりも長く、私が青春を過ごした場所です。

建築の世界に飛び込んだ16歳の私は、模型にまみれ、徹夜で課題やコンペに向き合う日々を送りました。悔しさや不安で胸がいっぱいになる夜もありましたが、その時間の積み重ねこそ、逃げずに選び続けた道の証であり、今の私を支える揺るがない土台となっています。

研究生として地域のまちづくり調査に取り組んだ1年間は、建築が社会や人の暮らしに深く関わることを体感し、より広い世界を自分の目で見たという思いを強くしました。低学年の頃からバックパックを背負い海外を旅しながら、「いつか長期で世界を巡りたい」と願ってきた夢が、専攻科でついに叶いました。

渡航した1年間、アメリカでは建築事務所でインターンとして地域課題に向き合い、多様な価値観の中で対話を重ねながら、建築が人と地域をつ

ないでいく力を実感しました。その後も旅を続け、さまざまな文化や背景を持つ人々との出会いを通して、自分の視座が更新されていくのを感じました。“未知や変化を恐れず、一步踏み出す勇氣こそが未来を切り拓く”確信を得た時間でした。

もしこの旅路がなければ、9年間の胸を張って誇りに思うことはできなかったでしょう。

帰国後は、自分の研究に責任を持ち、仲間と議論し、考え抜く力を磨きました。都城高専に在籍した長い時間は、私の人生をより豊かにするために必要な時間でした。

振り返れば、泣いた日も笑った日も、全てが宝物です。高専に入る決断をしたあの日の自分に、「最高の選択だよ」と伝えたいです。

最後に、支えてくださった先生方、友人、家族、そして世界中で出会ったすべての方々へ、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

不易流行

高専祭実行委員長挨拶 若松 大洋

今年度の文化祭は色とりどりのバルーン打ち上げから始まり、様々なイベントで大盛り上がりをしたのちに、華々しい花火のもと無事に幕を閉じました。

私は文化祭実行委員長を務める中で、多方面からの意見に耳を傾け、新しい挑戦をしていくことに最も力を入れて取り組んできました。その一環として、学生屋台の復活や、開会式のバルーン打ち上げ、打ち上げ花火のクラウドファンディングなど様々な取り組みを行いました。

中でも印象に残っているイベントは開会式のバルーンの打ち上げです。この企画にあたり、最も重視したことは「都城高専を背負う仲間としての結束」をかたちにするということです。文化祭実現のためにそれぞれの場所で努力してきたすべての学生が一つのゴールに向け歩んできたことを示し、より強い一体感を生み出すことを目指しました。体育館でのバルーンの打ち上げは初めての試みということもあり、未知のトラブルに対する対策や、新しく生まれた問題に対処するトライアンドエラーの連続でした。限られたリソースの中で実現することのできたこのイベントは、私たち実行委員が想定していた以上の盛り上がりを見せました。今でも、ステージ上から鮮やかなバルーンが打ちあがる様子は鮮明に思い出すことができます。

このような文化祭を実現できたのはともに歩んできた実行委員のおかげです。一年近く支えてくれた仲間には心から感謝しています。新しい試みも多く、様々なトラブルが生じることとなりましたが、そのたびにみんなで悩み、話し合い解決してきました。共に悩みぬいて困難を乗り越えた日々は一生忘れることができません。これから困難に立ち向かうときはこの日々を思い出して、越えられない壁はないということを自分に言い聞かせたいと思います。

また、実行委員のみならず、ともに準備をしてきた学生、私たちを温かく見守ってくださった先生方、深山会、霧島工業クラブ、保護者の皆様、近隣の方々、クラウドファンディングに協力してくださった方々などたくさんの方の協力のおかげで実現することができました。

特にクラウドファンディングでは、初めての試みながらたくさんの方々に支援していただきました。皆様からの温かな思いは打ち上げ花火という私たち学生の忘れることのできないかけがえのない経験となりました。

この場をお借りして文化祭の実施にご尽力いただきました皆様にお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。



機械工学科 『教育用スターリングエンジンの製作と性能評価』

谷本 暁斗

今回、4 年機械工学科の研究発表として、私たちは『スターリングエンジンの製作と性能評価』に取り組みました。

近年の地球温暖化問題に関心を持ち、その原因の一つである二酸化炭素を全く排出しないエンジンとしてスターリングエンジンに注目し、今回の研究テーマとして選びました。

スターリングエンジンにはいくつかの形式がありますが、構造はやや複雑であるものの、動きが分かりやすく教育用として適していると考えたアルファ型（図1）を選びました。設計から製作、実験と改善までを自分たちの手で行うのは初めての試みで、不安もありましたが、挑戦してみようという気持ちで研究を進めました。

設計段階では、加熱部と冷却部がどのように作用してエンジンが動くのかを理解することに苦労しました。製作では実習工場の先生方に教わりながら、旋盤やベルトサンダーなどの工作機械を用いて、丁寧に作業を行いました。

完成後に稼働実験を行いました。作製したエンジン（図1）は残念ながら動きませんでした。しかし、実験後の観察や考察を通して、気密性の不足や加熱部と冷却部の温度差が十分に確保できていなかったことなど、多くの課題点が明らかになりました。

今回の研究では目に見える成果を出すことはできませんでしたが、失敗から多くのことを学ぶ貴重な経験となりました。今回得られた反省を生かし、今後も改良を重ねていきたいと思っています。協力してくださった4Mの皆さん、実習工場の先生方、本当にありがとうございました！

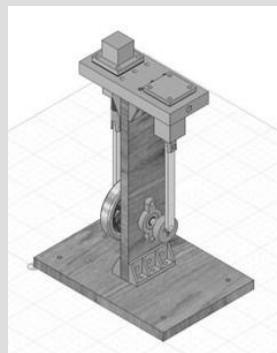


図1 アルファ型スターリングエンジンの全体図

電気情報工学科 『人間発電所設立によるエネルギー供給』

堀内 大輔 内村 京祐

私たち4年電気情報工学科は、「人間発電所設立によるエネルギー供給」をテーマに研究を行いました。現在、日本は多くの電力を化石燃料に頼っており、エネルギー自給率の低さが課題となっています。一方で、私たちの身の回りには、まだ十分に活用されていないエネルギーが数多く存在しています。そこで私たちは、誰もが常に発している「人間の体温」に着目しました。人の体から出る熱は、これまでほとんど利用されてきませんでした。しかし、この熱を電気に変えることができれば、無駄になっているエネルギーを利用することにつながるのではないかと考えました。そこで本研究では、人工衛星などにも使われている温度差があると電気が生まれる熱電発電という技術を用いて、人の体温からどの程度の電力を得ることができるのかを調べました。

実験では、熱電素子を人の腕に装着し、さまざまな温度条件で発電の様子を測定しました。室温の状態では発電量はわずかでしたが、体の周囲を温めたり冷やしたりして温度差を大きくすると、発電量も増加することが分かりました。特に寒い

環境では、他の条件と比べて大きな発電が確認され、わずか1cm²の面積から834μVの電圧を得ることができました。これらの結果をもとに、世界全体で人間の体温を利用した場合、どの程度の電力が得られるのかを試算しました。その結果、約63億kWhと、とても無視できない量のエネルギーになる可能性が示されました。このことから、人間の体温も「使い方次第で資源になり得る」ことが分かりました。

今回の研究を通して、普段は意識しない身近なエネルギーにも可能性があることを学びました。一つ一つは小さなエネルギーでも、それを積み重ねることで、将来的には化石燃料に頼らない社会の実現に近づくと考えています。研究を進める中では多くの試行錯誤がありましたが、仲間と協力しながら問題を解決していく経験は、今後の学びにおいて大きな財産となりました。最後に、ご指導いただいた先生方や支えてくれたクラスメイトに心より感謝いたします。

物質工学科 『生物由来物質を利用した耐水性紙ストローの開発』

佐藤 龍貴 長倉 大誠 松元 颯太

私たち4年物質工学科は、近年環境問題となっているプラスチックごみの対策として、紙の利用に着目しました。紙はプラスチックの代替品として期待されていますが、耐水性の低さや加工の難しさなど、利用においての課題があります。そこで、私たちは紙の生分解性を失うことなく耐水性を向上させることを目標に、紙ストローを生物由来物質のミツロウとシェラックのそれぞれでコーティングし、機能面の評価を行いました。

具体的なコーティング方法について、まずミツロウは天然の油脂であり、65℃でとける性質があるので、湯煎でとかしそこへ紙ストローを漬けてコーティングしました。一方で、シェラックとはラックカイガラムシという生物から取れる樹脂であり、身近なもので言えば食品添加物として用いられたりもします。加えて、アルコールに溶ける性質ももつため、エタノールに一定量を溶かし、そこへ紙ストローを漬けてコーティングしました。

そして、ここまでで得られた結果として、どちらのコーティングも耐水性は十分に得られました

が、ミツロウは摩擦や変形などでコーティングが剥がれやすく、シェラックも特有の匂いやベタつきが残っていました。しかし、生分解性はミツロウがコーティングなしの状態より低くなった一方で、シェラックでは同等以上の結果が得られました。これを踏まえて、シェラックコート改善を推し進めることにしました。

最終的な形としては、シェラックコートの問題点である匂いとベタつきの対策として、セルロースビーズ（セルロースの微粒子）を新たに加え、さらにこれらを含む溶液を加水しながら（1時間おきに風乾から取り出し水に漬ける）乾燥する工程も加えることで、従来のストローと同様に利用できるコーティング紙ストローを作ることができました！

今回の研究活動を通して、多くの先生方から助言、ご協力をいただき、貴重な経験や忘れられない時間を得られました。この場を借りてお礼を伝えたいと思います。ありがとうございました。

建築学科 『バイオミミクリーと建築』

宮本 優希和 堀内 来圭 綿屋 小羽音

私たち四年建築学科の研究テーマは『バイオミミクリーと建築』です。バイオミミクリーって何だろう、きっとみんなそう思ったことでしょう。

バイオとは生命、ミミクリーとは模倣のことで自然界の生き物や生態系が持つ優れた仕組みや性質を模倣し、それを技術やデザインシステム開発に活かす考え方やアプローチのことです。

実際、私たちの周りのものはバイオミミクリーで溢れています。例えば、みなさんが一度は使ったことがあるマジックテープはごぼうの実を研究することで開発されました。他にも、新幹線の先頭部分はカワセミのクチバシの形状を参考に設計することで空気抵抗と騒音を大幅に低減しています。

このように、自然界や生物の構造は何千、何万年も前から収斂進化してきたものがたくさんあり、それらは材料節約や力学的効率化に優れていて、多くの学べることがあります。

たくさんの生き物や自然界について調べていくうちに『カイロウドウケツ』という深海生物を見つけました。この生物は別名『ヴィーナスの花籠』と呼ばれていてガラス質の繊維が網目状に組み合わさり円筒型の骨格を形成しています。

ガラス質の繊維が正方形の格子構造を作り、格子の対角線方向にも斜め補強材が入ることにより、縦方向だけでなく横方向の荷重にも強い構造になっています。

この荷重に強い構造と、面白い見た目のデザインを活かして私たち四年建築学科は何か作れないか考えました。

クラスのみんなで話し合った結果、この学校には勉強に集中できるようなスペースはいくつかありますが、一人で集中して取り組めるような空間がないという声が上がりました。

私たちはヴィーナスの花籠を使うことでこれを解決することにしました。

コンセプトを『簡単に設置できて、落ち着くことのできる空間』に設定して計画を進めていきました。温かみのある木造で接合部にはビスや釘を使わず切り欠くことで、簡単に設置できて、解体できます。広さは感染症などを考慮した場合の国際的なスフィア基準の一人当たりのスペースを採用して、3.3～4㎡で計画しました。

壁は障子のパネルにして、格子を活かしつつ、落ち着ける和の雰囲気を出しました。

今回の研究ではカイロウドウケツに注目しましたが、我々の生活の中にはまだまだ多くのバイオミミクリーが潜んでいるので是非注目してみてください。

ご協力していただいた先生方、4Aの皆さんに心から感謝しています。本当にありがとうございました。

★機械工学科3年★ 『すこぶる元気な3M』

柳田 翔太

こんにちは3年機械工学科の坊主です。
僕ら3Mは38人で、良くも悪くも元氣よく個性の強いメンバーが集まり学校生活を過ごしています。入学してから早くも3年が過ぎようとしています。入学して初めてみんなと挨拶を交わしてから3年もたとうとしているのがにわかに信じがたいほどの時の流れの早さを感じています。

1年生では初めての専門の授業に苦戦することや初めて触れる工作機械などに楽しさと少しの不安を抱えていました。それと、班のみんなで協力しながら何を書けばいいかわからなかったレポートを、叫んでみたり、時計を見て絶望したり、色んな工夫をしながら夜な夜な書いていたのが記憶に残っています。初めての文化祭では劇をしたのですが、後期に入り、少しずつ学校に慣れてきたことでみんなそれぞれの意見を主張するようになり、すれ違いも生じながらなかなかクラス全員で劇に対して進むことが出来ず、集団をまとめることの難しさを感じました。ただ、みんなで意見を言い合い学んだことの多い行事になったと感じました。

2年生では、専門科目が増えテストの難易度が少し上がり、1年の頃より更に協力し、互いに教えあったり、先生や先輩方からの情報を共有しあったりしながらテストを乗り越えていました。

体育祭では、一部のクラスメイトは応援団に入り、文化祭など忙しいながらも隙間時間などを見つけては演舞の練習を頑張っていました。文化祭ではお化け屋敷をすることになっており、みんな体育祭、文化祭の仕事などがあり忙しい中協力し合い何とか作り上げる事ができ、イベントの楽しさと大変さを同時に学んだと思います。

3年生では、体育祭のクラス対抗リレーで初めて決勝に残ることが出来ました。沢山の応援を受けながらみんなで決勝を走るの気分が良かったです。そして、3年生で大きなイベントである研修旅行では、熊本、長崎の企業を2泊3日で巡りました。僕は前日に高熱がでて残念ながら旅先の風景ではなく家の天井を眺めることになったのですが、クラスメイトには心配の連絡や、お土産などをくれる聖人が沢山いて改めてこのクラスで良かったと思いました。

卒業までの折り返し地点はもう過ぎているので、これからの時間も大切にしながら過ごしていこうと思いました。

★電気情報工学科3年★ 『個性があふれでるクラス』

北野 陽

私たち電気情報工学科3年生は、現在44人の仲間たちで、留年というプレッシャーを受けながら仲良く身を削り協力し合いながらレポートやテストなどの敵に立ち向かっています。

このクラスを食べ物に例えると、「具沢山カレー」だと私は思っています。そう考えた理由は、このクラスの仲間みんなが個性豊かで、彼らが毎日の学校生活にたくさんの刺激を与えてくれていると考えたからです。

今年の体育競技会の応援演舞では、クラスからたくさんの人数が応援団に参加し約1カ月間練習に励みました。4学科中2位という結果で終わりましたが、この体育競技会を盛り上げてくれました。

高専祭でもまた、クラスからたくさんの人数が屋台局や物品局、広報局などといった局の仕事を担い、イベントや出し物などの準備や運営を行ってくれました。また、学科開放では、「タイムアタックレースゲーム」を行いました。準備段階では、企画班やプログラミング班、BGM班といった様々なグループに分かれて、分担して作業を行い

ました。企画の段階からみんなのユーモアのあるアイデアがたくさん出てきて、面白いゲームを作り上げることができました。当日はたくさんの方々にお越しいただき、とても素晴らしい出し物ができたと思います。

個性豊かで意見を持っている人がたくさんいるからこそ、クラスの中で意見がぶつかり合ってしまうことがしばしばあります。互いに意見を出してそれを認め合えるようになればさらに団結力のあるクラスが出来上がると私は思います。

私たちのクラスには、自分からリーダーシップを持って学校行事に積極的に参加できる人がたくさんいます。衝突も時には起こりますが、それを経てクラスの仲が深まっていると思います。5年間ある高専生活も半分ほど過ぎてしまい、時間の速さに驚かされる毎日です。これからもだれ一人欠けることなく个性的で勢いのある唯一無二のクラスで残り的高専生活も楽しんでいきます。

★物質工学科3年★ 『文武と絆』

滝瀬 桜月

私たちのクラスを一言で表すと、まさに「文武両道」を体現し、かつ非常に「仲が良い」集団です。高専という専門的な学びの場において、私たちは互いに刺激し合いながら、学習面でも課外活動面でも妥協することなく取り組んできました。

まず「文」の面では、日々の講義や実習に真摯に向き合い、クラス全体の成績も比較的良好な水準を維持しています。そして「武」の面では、高専大会においてその実力をいかんなく発揮しました。多くのクラスメイトが地区大会でメダルを獲得し、さらには全国大会への切符を掴み取るなど、それぞれが部活動においても輝かしい実績を残しています。こうした切磋琢磨し合える環境が、私たちのクラスの誇りです。

こうした多忙な日々の中でも、私たちが一致団結して楽しむことができるのは、クラスの絆が非常に深いからです。毎年、体育祭や高専祭（文化祭）の後には必ず打ち上げを行い、行事の成功を全員で分かち合うのが恒例となっています。

特に印象に残っている経験が二つあります。

一つは、一年次の文化祭での劇です。私たちは

「今日から俺は!!」のパロディとして、「今日から俺は～高専版～」を企画しました。準備期間は大変でしたが、本番ではクラスメイト全員でダンスを披露し、会場を大いに盛り上げました。全員で一つのもので作り上げたあの瞬間は、私たちの結束をより強固なものにしました。

二つ目は、三年次となった今年、文化祭の学科開放での体験型展示に取り組んだことです。

「シャボン玉」や「魔法のメスシリンダー」といった、訪れた人々が科学を身近に感じられる実験を企画しました。準備段階では試行錯誤もありましたが、当日は多くの方に楽しんでいただくことができ、大成功を収めました。

これらの活動が成功したのは、決して一人の力ではなく、クラスメイト全員が協力し、支え合ってくれたおかげです。

来年は高専祭の研究発表で他学科と競い合うこととなります。仲の良さと物質工学科らしさを出して一位をとります。これからもこの絆を大切に、文武両道を掲げて残りの高専生活を駆け抜けていきたいです。

★建築学科3年★ 『個性が集まるクラスの力』

田中 美妃

入学してあっという間に半分が終わり、もう次の進路を考え始める時期になりました。入学当初は皆控えめで、比較のおとなしかった私たちのクラスは、現在42名の個性豊かな仲間とともに、あの頃からは考えられないような、活気に満ち溢れた日々を送っています。

特に文化祭・体育競技会時期は、皆いつも以上に活動的です。コンテストに出る人や、文化祭を盛り上げるため局の仕事に頑張る人、文化祭準備よりも演舞練習に全力を注ぐ人など、各々が自分の強みが活かせる場所で活躍しています。しかし、それぞれの活動場所に分かれてしまうため、文化祭でのクラスの出し物は完成するのかと毎年焦ってしまいます。それでも私たちは謎の団結力で完成させ、無事文化祭を迎えます。

謎の団結力とは？と思った人もいるかもしれませんが。私たちのクラスは文化祭・体育競技会のシーズン中、普段は話すことがない人同士が局や演舞をきっかけに仲良くなったりし、イベントを盛り上げていきます。ですが、1ヶ月もすれば元に戻ってしまいます。この現象を私は謎の団結力と呼んでいます。

この謎の団結力に救われるのは、イベント時期だけではなくではありません。定期テストの時も発揮されます。例えばわからない問題があるとき、普段話さない人に聞いてみたり、過去問や先生からの情報を回したりなど、きっとこれらに救われた人は私だけじゃないと思います。他にも先生の出題ミスがあったとき、何人かが全力でテスト範囲と教科書を見比べ、何とか点数アップに持っていったりしたこともあります。

そんな謎の団結力があり、皆の個性がぶつかり合うこの3年建築学科は他のクラスにはない魅力があり、本当に愉快的なクラスです。私はこのクラスでよかったなとつくづく思っています。

来年以降も専門科目のテストに怯えながら生活することになるとは思いますが、皆で協力して無事に卒業したいと思っています。

まだまだ半人前の私たちですが、温かい目で見守っていただければ幸いです。

特集Ⅲ こちら後援会

巣立っていくあなたへ

機械工学科 5年 安井 さと子

息子が高専に興味を持ち始めたのは小学高学年の頃、たまたまNHKテレビを見ていた息子。静かだなと思い覗いてみると「高専ロボコン大会」を見ていました。「すごっ」と目を輝かせ画面に釘付け状態。

その頃から放送がある時は録画をし、見ていました。ハピロボ～【とどけ！ケーキゴーランド！】親子共々、すごっと声を合わせて言ったのを今でも覚えています。

「高専に行きたい、僕もロボコン大会に出たい。」

中学に入り進路を決めると、目標に向かって必死に勉強を取り組んでいましたが、私としては内心難しいぞいけるのかと入試が近づく日まで感じていました。

高専入試の合格発表当日、「番号」があった時は何度も何度も確認し、息子が合格通知を持って帰るまで信じられませんでした。

入学式当日、念願の高専へ入学でき嬉しい反面、息子は寮生です。今日から家にはいないのかと寂しさが溢れ出しました。

高専に入学し、入部したかったロボット製作局にも入り学校での学びだけではなく、先生方や諸先輩方に出会い多くのことを学んだ様です。

寮生活では、入学当初は慣れないことばかりで大変だと話していましたが、帰省するたび息子を見ると自ら行動して家のことをしてくれるようになりました。離れて生活した5年間、たくさん失敗し、先輩や仲間から教えていただき学んだことでしょう。

今では一人暮らしも出来ると思えるぐらい成長した様に感じます。

私の事を少し、息子が2年生春休み前の時期でした。学校後援会地区の役員をあみだくじで決めた結果なぜか役員を当ててしまい、分からない事ばかりでしたがなんとか終わった1年間。

次年度は副会長をと仰せつかり、息子が4年生の時は後援会副会長（寮担当）に、さらに頭の中では『どうしよう』という言葉と日々葛藤していましたが、同じ役員の方々に助けていただきながら最後までやり遂げることができました。

役員活動をさせていただいたこの2年間、学校（先生方）、寮、学生との意見交換、交流と、先輩の保護者の方からもいろいろな話、情報を得ることができたこと本当にいい経験でした。有難うございました。

最後に息子へ

高専で学んだたくさんの知識と技術、まずは自分で行くと決めた大学で十分に発揮し、さらなる高度な知識、技術を取得しないといけないことでしょう。

これから苦難や困難が訪れても、

中学3年生のあなたは毎日遅くまで必死に高専入試への勉強をし、それを乗り越え今がある。壁にぶつかったら、高専生活5年間でできた心強いたくさん仲間や先生方がいることを忘れずに次のステージへ。

乗り越えた時の達成感を感じられる大人へ、社会へ翔け。

【晴翔】名前通り、

明るく心晴れやかで自由にのびのびと思い描いた夢の舞台へ翔けていく

あなたならできます。

親ですが五年間の思い出

機械工学科 5年 種子田 国一

早いもので入学式を終えて、5年が経過しようとしています。

高専へ進学が決まり親としては「長い5年間になるな」と感じると同時に、どのように息子と向き合い、この5年間を乗り切り、乗り越えていけばよいのかと考えた日のことを今でも思い出します。本人はいたって平然としていましたが、私の方が不安を抱えて気合いを入れていたような気がします。

そんなスタートで学校生活が始まりテスト期間、学校行事、部活動、遠距離での自転車通学を淡々とこなしていく息子の姿を見て、「こんなものなのかな」と思いながらも、行事のたびに口うるさく何度も確認し、伝えていた自分がいたように感じます。

私は県立高校卒で3年間しか過ごしていません。進学校でもなかったため、「卒業して就職できればいいか」と、授業やテストにもそれなりにしか取り組んでおりませんでした。そんな中、息子の教科書やテスト問題に目を通す度、「こんなに高度な勉強をしているのか」と驚き、次第に息子や高専生の皆さんに対して、尊敬の念を抱くようになりました。

そんな素晴らしい生徒さんたちが通う高専の行事の流れにも毎年驚かされます。体育祭が終わったかと思えば、すぐに文化祭——「え、毎年この流れなのか」と感じるほどです。担当が決められ、各部署で運営されているとはいえ、その行動力と実行力には毎回感銘を受けております。

体育祭には毎年応援に足を運ばせていただきました。特に応援演舞を楽しみにしており、各学科の魂のこもった演舞は

本当に感動的でした。また、棒倒しではクラスの団結力を強く感じ、結果も伴った最強の姿を拝見することができました。さらに、学科対抗リレーは体育祭最後の花形種目ということもあり、学生の皆さんの全力疾走に毎年胸を打たれました。応援では、グラウンドが学生たちで埋め尽くされ、言葉は適切ではないかもしれませんが、まるで無法地帯のような熱気の中で、一所懸命に声援を送る姿に、自然と笑みがこぼれました。

文化祭におきましても、毎年感動と笑いを届けていただき、必ず観覧させていただいておりました。企画と構成、運営がすばらしいのはもちろんですが、展示物や演者の方々の苦勞と努力が漲る姿が本当に感動します。特にバンドは日々の練習の賜物ですね、どのバンドもすばらしい演奏でかっよかったです。

また、ボディビルコンテストでは、鍛錬の成果が自信となって表れており、美しい筋肉だけでなく、笑いのセンスまで磨かれていて、涙が止まらなかったことを思い出します。

この5年間で子どもたち自身も多くの良い思い出を残していることと思いますが、実は私自身も、数えきれないほどの思い出と感動をいただいていたのだと感じております。何事にも本気で取り組む高専生の姿があるのは、ひとえに先生方のご指導の賜物であり、心より感謝申し上げます。

最後になりますが、機械工学科の皆さんは就職、進学と来春には各々旅立たれます。都城高専で培った経験と努力と知識で最強の人生を突き進んでいかれることを、心より願っております。

出会いに感謝し、未来へ

物質工学科 4年 大野 英幸

高専に入学してから四年が過ぎました。振り返れば、中学校時代に進路を迷っていた頃、「将来ディズニーで働きたい」と夢を語っていたことが懐かしく思い出されます。正社員として働くのは狭き門で、有名大学を出ても採用は難しいという情報を目にしました。その中で、高専出身者が多く採用されている関連会社があり、パーク内でメンテナンスなどを行っていることがきっかけで、高専進学を志すようになりました。

三年生になる頃には、物質工学科に進みたいと話すようになりました。「ディズニーで働けないけどいいの？」と問いかけると、「遊びに行ければいい」と答え、学科を変更しました。小さい頃から「自分の道は自分で決めて努力してほしい」と伝えてきたので、本人が選んだ道ならそれで良いと思いました。進路の選択に悩みながらも、自分で決断して歩んできたことは、これからの人生においても大切な経験になるでしょう。

しかし、私たちの住む地域では高専に関する情報がほとんどなく、弟夫婦から数十年前の話を聞く程度でした。ネットで合格レベルを調べ、情報収集に明け暮れる日々。学校や塾でも高専受験対策はなく、過去問を自分で解き、分からないところは動画で勉強するしかありませんでした。孤独な挑戦だったと思いますが、その努力が合格へとつながりました。

入学後は、初めての寮生活や見知らぬ土地での新生活に不安も大きかったでしょう。最初の頃は毎週のように帰省し、

週末は家で過ごすことが多かった娘ですが、次第に友人ができ、吹奏楽部に入部するなど、学校生活を楽しむ姿が見られるようになりました。親としては寮や学校での様子が分からず不安もありましたが、少しずつ成長していく姿に安心を覚えました。

私自身も後援会活動に参加する中で、先生方や学生、保護者と接する機会があり、改めて学校の素晴らしさを実感しました。高専は高校とは違い自由な校風と聞いていましたが、実際に接してみると、学生の能力の高さに驚かされました。コミュニケーション能力や言葉遣い、物事への取り組み方、どれを取っても私の学生時代とは比べものにならないほどです。その環境の中で娘も少しずつ成長し、先輩や同級生、先生方の姿から多くを学んでいるのだと思います。

学校生活・寮生活で得た知識や経験、そして人とのつながりは、何よりの財産です。困難に直面したとき、助けてくれるのはきっと高専で出会った仲間たちです。人との出会いは最大の宝であり、その絆を大切にしてほしいと思います。

来年は一つの区切りであり、新しい挑戦の始まりです。これからも自分を信じ、納得のいく選択を重ね、後悔のない人生を歩んでください。学生生活で培った力を信じ、未来へ向かって大きく羽ばたいていくことを心から願っています。



旧学生会長挨拶

『みなさんへ』

機械工学科 5 年 種子田 峻聖



皆さんこんにちは。令和 7 年度学生会長を務めさせていただきました、種子田峻聖です。この 1 年間、学生会長として活動する中で、私は多くの経験と学びを得ることができました。学生会という立場を通じて学校のことをより深く考える機会が増え、行事や日々の活動を通して、これまで以上に高専生活を大切に感じるようになりました。また、学生会の仲間はもちろん、先生方や多くの学生の皆さんと関わる中で、人として成長する機会を多くいただけたことを、心から嬉しく思っています。

今年度の学生会では、学科や学年を越えた交流を増やすことを目標に活動してきました。さまざまなイベントを企画・運営し、そこに多くの学生が参加してくれたことで、新しいつながりや会話が生まれたと感じています。特に文化祭をはじめとした行事では、準備の段階から多くの学生が協力してくれました。その過程で見られた皆さんの熱意や団結力は、私にとって非常に印象的であり、高専の魅力を改めて実感した瞬間でもあります。

振り返れば、この 1 年は「あの頃に戻りたい」と思ってもらえるような学校をつくりたいという思いから始まった 1 年でした。そして今では、私自身が最もその気持ちを強く感じています。学生生活の中で味わう楽しさや悩み、仲間との時間は、どれもかけがえのない思い出になると確信しています。

最後に、新しい学生会長にメッセージを送ります。周りの人をたくさん頼ってください。きっとあなたの支えになってくれるはずです。その分、あなた自身も多くの人に頼られる存在になれるよう、ぜひ挑戦を続けてください。学生会活動は必ず成長につながります。今後の活躍を心より期待しています。

今までのご支援、本当にありがとうございました。学生会長としての任期を終えますが、高専の発展と皆さんの幸せを心より願っています。お世話になりました。

新学生会長挨拶

『これから』

機械工学科 4 年 西村 瑠翔



皆さん、こんにちは。

この度、新学生会長という大役を仰せつかりました、4 年機械工学科の西村瑠翔です。

まずは前会長の種子田先輩をはじめ、これまで学生会活動に尽力してくださった旧役員の方々、本当にありがとうございました。先輩方が築いてこられた温かく活気のある伝統を引き継ぐことに、大きな責任と緊張を感じております。

これまでの自分を振り返ってみると、ついこの間まで夢中で遊んでいた少年だったような気がしますが、気づけば私も「二十歳」という人生の大きな節目を迎える年齢になりました。いよいよ大人としての責任を負う年齢になったのだと、身の引き締まる思いがすると同時に、時の流れの速さにはただ驚くばかりです。

正直に申し上げますと、1 年前の私が今の自分を見たらほんとに自分なのか疑ってしまうと思います。この 4 年間で様々な経験をさせていただきましたが、まさか学生の代表として、この「学園だより」に寄稿することになるとは、人生何が起こるかわからないものだと思感しています。

私が掲げる公約は「学生ファースト」です。こう書くと少し硬く聞こえるかもしれませんが、要するに「なんとなく、今日も学校に来てよかったな」と思えるような、居心地のよい環境を整えていきたいということです。高専生活は、時として「オーバーヒート」しそうな瞬間がたくさんあります。そんな日々の中で、校則や学校行事、学生会イベントなどが皆さんにとって「潤滑油」の存在になれるように努めてまいります。

学生会は、どうしても学生の皆さんから少し距離があるように感じ取られがちですが、本来は皆さんの声が届いて初めて機能する組織です。どんなに小さな意見や不満でも構いません。リアルな本音が、より良い学生生活を作るためには欠かせないです。私は、皆さんと学校をつなぐ「風通しの良い窓口」になれるよう誠心誠意取り組んでいきます。

至らぬ点も多々あるかと思いますが、皆さんと共に「この学校でよかった」と思える 1 年間を作っていきます。1 年間どうぞよろしくお願いします。

学内トピックス

学生サロン「流しそうめん～麺液つけて夏に備えよ～」

7月9日（水）に本校学生会主催で、第2回学生サロン「流しそうめん～麺液つけて夏に備えよ～」を本校楽信館前にて開催しました。

学生会では学生間の交流や先輩たちまたは学生会役員とつながるきっかけを作る学生サロンを定期的に行っています。今回の第2回サロンでは暑い夏を乗り切るために学生たちに少しでも涼しい夏を届けたいという思いから「流しそうめん」や夏を乗り切るためのアイテムがもらえる「ジャンケン大会」を実施しました。当日は多くの学生が参加し、暑い中ではありましたが大変大盛況となりました。



体育競技会

10月30日（木）に体育競技会を開催しました。当日は、応援演舞を含めて、学生が様々な立場で躍動し、各競技とも大変盛り上がりました。

各学科が放課後や休日に多くの時間をかけて、熱心に練習を重ねてきた応援演舞には、観覧していた学生・教職員や来場者から惜しめない拍手が送られました。また、今年度も演舞の録画配信を行い、当日観覧に来ることのできなかった保護者等にも楽しんでいただけるようにしました。

競技の部総合優勝は機械工学科、応援演舞の部優勝は建築学科、看板の部優勝は機械工学科でした。機械工学科は、競技の部で令和3年度から5年間、看板の部は令和5年度から3年間の連続優勝を果たしました。建築学科は、応援演舞の部では長らく優勝していませんでしたが、今年度は努力が実を結び、久方ぶりの優勝となりました。



開会式 選手宣誓



競技の部総合優勝 機械工学科



応援演舞の部優勝 建築学科



看板の部優勝 機械工学科

文化祭

11月1日（土）に文化祭を開催しました。今年のテーマは「燎 ～炎のように力強く、そして美しく～」。学生一人一人の情熱が燎のように輝き、文化祭や本校、ひいては宮崎全体を照らす存在になってほしいという願いが込められています。

伝統を守りつつ、新しくて革新的な文化祭を作り上げることをモットーに、文化祭実行委員会をはじめとした学校全体で準備を行いました。1年生合唱コンクール、2年生お化け屋敷、3年生学科開放、4年生研究発表を始めとする各種イベントやコンテストを実施し、保護者や一般の方もご来場いただきました。キッチンカーの出店や後援会によるカレーうどんの無料配布だけでなく、今年度は学生が提供する屋台も復活し、長い行列ができました。

文化祭を締めくくる「打ち上げ花火」ではクラウドファンディングを実施し、目標金額50万円を大きく超える773,000円の支援をいただきました。ご支援いただいた皆様、保護者の皆様、地域の皆様及び霧島工業クラブ会員企業の皆様に深く感謝いたします。＜支援企業様一覧・順不同＞株式会社コバテック宮崎工場、ヤマエ食品工業株式会社、南国興産株式会社、株式会社平田建設、日本情報クリエイティブ株式会社、株式会社サポートライフ、大和工機株式会社、株式会社デンサン、大淀開発株式会社、西南電気株式会社

今年度の各イベントでは、1年生合唱コンクールと4年生研究発表は電気情報工学科、2年生お化け屋敷は建築学科がそれぞれ最優秀賞を受賞しました。



開会式



1年生合唱コンクール 電気情報工学科



4年生研究発表 電気情報工学科



学生屋台



閉会式 エンディング動画

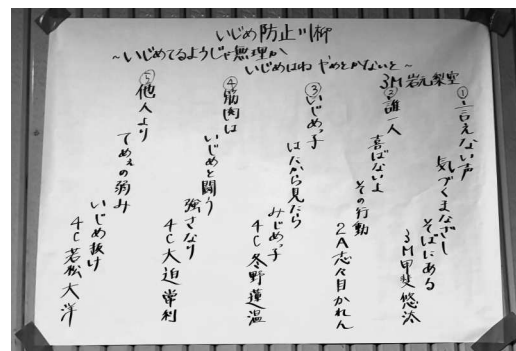


打ち上げ花火

【いじめ防止週間】いじめ防止川柳大会

12月15日（月）から12月19日（金）は、本校の令和7年度いじめ防止週間でした。

今年度のいじめ防止週間では、5.7.5で作った川柳を募集し、「いじめ防止川柳大会」を実施しました。12月17日（水）に行われたクリスマスイベントにて、応募された川柳から最優秀賞を投票で決定しました。今年度の最優秀賞は、4年物質工学科の冬野 蓮温さんの作品『いじめっ子 はたから見たら みじめっ子』が受賞しました。



入賞作品

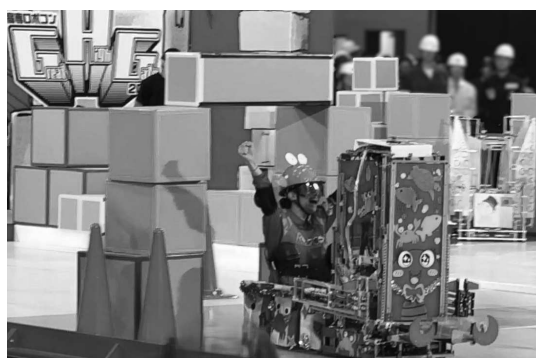
高専ロボコン2025 地区大会・全国大会

9月28日（日）に福岡県大牟田市の大牟田市総合体育館（おおむたアリーナ）にて、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2025九州沖縄地区大会が開催されました。

今回の競技名は「Great High Gate」。ロボットがボックスを積み上げてゲートをつくり、そのゲートを人が乗った台車と一緒に通過する内容で、そのゲートの高さや通過した回数などを競うものです。

本校からは、都城Aチーム「御出座し（おでまし）!!カーニバル☆」と都城Bチーム「建国せよ！モンキングダム」が参加しました。試合結果は、両チームとも残念ながら予選グループで敗退となり、決勝トーナメントには進めませんでしたが、Aチームはカニを模したロボットがボックスを運ぶ愛らしいデザインが高く評価され、デザイン賞を受賞しました。また、審査員推薦チームとして選出され、11月16日（日）に東京両国国技館で開催される全国大会への出場が決定しました。

全国大会では、残念ながら本校チームは操作ミスとマシンの不具合が重なり制限時間内でゲートを立てることができなかった一方、相手チームはゲートを完成させ、結果は1回戦敗退となりました。3年ぶりとなる全国大会出場でしたが、チームマネジメントや技術力の面で多くの課題を残す結果となってしまいました。しかし、参加した学生は3年生以下のチームですので、この経験を糧に来年度の更なる活躍に期待したいと思います。



Aチーム「御出座し（おでまし）!!カーニバル☆



Bチーム「建国せよ！モンキングダム」



集合写真（地区大会）



全国大会での試合の様子

高千穂寮トピックス

新入生歓迎会

4月23日（水）に新入生歓迎会を開催しました。この春入寮した1年生が自己紹介を行い、その後会場を運動場に移して、皆で手持ち花火を行い和やかなひとときを過ごしました。



寮マッチ

6月29日（日）に寮マッチを開催しました。寮生たちは暑さに負けることなく、ドッジビー、バレーボールの2種目をとおして交流を深め、さわやかな汗を流しました。



第三棟が完成しました

こちら第三棟の完成をもって、令和2年より着工しました高千穂寮建替工事のすべてが完了し、新高千穂寮すべての棟が完成しました。



寮祭

5月11日（日）に寮祭を開催しました。昼の部ではステージ発表が行われ、キッチンカーのメニューを味わいながら輪投げなどのゲームを楽しみました。夜の部の抽選会では、参加した寮生の歓声が会場に響きました。



寮ナイトカフェイベント

12月10日（水）に寮ナイトカフェイベントを開催しました。キャンドル型の灯りでライトアップされた会場で、穏やかな冬の夜を楽しみました。



高千穂寮完成記念見学会を開催しました

8月27日（水）に高千穂寮完成記念見学会を開催しました。近隣の公民館長の皆様をはじめ来賓の方々をお招きし、温かな雰囲気の中で寮見学や懇談会が行われました。



学生表彰

第62回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

◎ハンドボール競技

ハンドボール部

準優勝

◎バレーボール競技

男子バレーボール部

第3位

◎水泳競技

男女団体

水泳部

優勝

女子100m自由形

姫島 こはる (1 C)

第2位 1分11秒37

女子100m背泳ぎ

鶴田 亜祐華 (3 C)

優勝 1分21秒37

男子800m自由形

植田 旬美 (5 A)

第3位 1分25秒99

女子4×50mメドレーリレー

白谷 竜琥 (5 E)

優勝 9分01秒55

男子4×100mメドレーリレー

鶴田 亜祐華 (3 C)、植村 心花 (3 C)、
姫島 こはる (1 C)、植田 旬美 (5 A)

第2位 2分33秒65

女子50m自由形

池之上 真廣 (3 C)、白谷 竜琥 (5 E)、
實方 亮仁 (3 E)、松田 夢雅 (2 E)

第2位 4分31秒38

女子200m個人メドレー

植田 旬美 (5 A)

第2位 32秒79

男子200m個人メドレー

姫島 こはる (1 C)

第3位 3分06秒06

男子200mバタフライ

池之上 真廣 (3 C)

優勝 2分25秒85

男子200m背泳ぎ

清田 悠仁 (2 E)

第2位 2分55秒82

男子400m自由形

福田 凌大 (3 M)

第2位 3分04秒70

男子100mバタフライ

津留 昇希 (4 M)

第3位 3分15秒52

女子4×50mフリーリレー

實方 亮仁 (3 E)

第3位 2分36秒23

男子4×100mフリーリレー

白谷 竜琥 (5 E)

優勝 4分22秒26

◎陸上競技

男子総合

植田 旬美 (5 A)、植村 心花 (3 C)、
姫島 こはる (1 C)、鶴田 亜祐華 (3 C)

優勝 2分16秒64

男子100m

實方 亮仁 (3 E)、白谷 竜琥 (5 E)、
池之上 真廣 (3 C)、松田 夢雅 (2 E)

第3位 4分00秒70

男子200m

陸上部

準優勝

男子400m

本目 漣玖 (1 C)

優勝 11秒27

男子5000m

頼 宏忠 (3 C)

準優勝 11秒28

男子4x100mリレー

今西 陽向 (4 M)

第3位 11秒38

男子4x400mリレー

頼 宏忠 (3 C)

優勝 22秒95

男子走高跳

本目 漣玖 (1 C)

準優勝 23秒05

男子走幅跳

内田 鳳聖 (3 C)

第3位 23秒11

男子三段跳

内田 鳳聖 (3 C)

準優勝 49秒94

男子やり投

清水 蒼斗 (2 A)

第4位 16分14秒88

OP男子200m

頼 宏忠 (3 C)、柳田 翔太 (3 M)、
内田 鳳聖 (3 C)、今西 陽向 (4 M)

優勝 43秒57

OP男子1500m

柳田 翔太 (3 M)、内田 鳳聖 (3 C)、
今西 陽向 (4 M)、頼 宏忠 (3 C)

優勝 3分27秒30

女子100mハールドル

阿部 慧一輝 (1 E)

優勝 1m65

女子4x100mリレー

田山 陽大 (1 M)

第3位 5m75 (0.0)

◎野球競技

阿久井 俊慈 (2 M)

第3位 11m99 (-0.4)

◎サッカー競技

中島 崇稀 (1 M)

優勝 46m51

種子田 峻聖 (5 M)

第5位 33m21

大迫 常利 (4 C)

第6位 29m04

今西 陽向 (4 M)

優勝 23秒52 (-1.4)

柳田 翔太 (3 M)

準優勝 23秒90 (-0.2)

上森 匠馬 (5 A)

第3位 24秒09 (-1.4)

岡野 匠 (2 A)

第3位 4分26秒02

下瀬 遥香 (2 C)

第3位 18秒56

相星 心夢 (2 M)、下瀬 彩音 (5 E)、
下瀬 遥香 (2 C)、本目 惺流七 (3 C)

準優勝 54秒77

硬式野球部

第3位

西脇 颯汰 (5 A)

優秀選手賞

学生表彰

◎テニス競技

男子シングルス

三原 正脩 (2 M)

第3位

女子ダブルス

中尾 莉彩 (3 C)、吉留 遙香 (3 C)

第3位

◎柔道競技

団体

柔道部

第3位

男子個人戦 81kg級

岩満 琥太郎 (3 C)

優勝

◎剣道競技

男子団体戦

剣道部

第3位

女子団体戦

剣道部

第3位

男子個人戦

堀内 来圭 (4 A)

第3位

第11回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

◎弓道競技

男子団体

弓道部

優勝

女子団体

弓道部

優勝

男子個人

那須 晃樹 (3 C)

優勝

前田 泰雅 (3 E)

第3位

女子個人

小林 由希奈 (3 E)

優勝

第60回全国高等専門学校体育大会

◎水泳競技

男子800m自由形

白谷 竜琥 (5 E)

第3位

9分03秒44

◎柔道競技

男子団体3人制

柔道部

準優勝

◎サッカー競技

西脇 颯汰 (5 A)

優秀選手賞

第11回全国高等専門学校弓道大会

◎弓道競技

男子団体

弓道部

優勝

女子個人

小林 由希奈 (3 E)

優勝

令和7年度宮崎県高等学校総合体育大会

◎弓道競技

個人の部 (女子)

小林 由希奈 (3 E)

優勝

◎陸上競技

男子4×400mリレー

本目 漣玖 (1 C)、内田 鳳聖 (3 C)
柳田 翔太 (3 M)、頼 宏忠 (3 C)

第5位

3分27秒72

◎水泳競技

男子 400m個人メドレー

池之上 真廣 (3 C)

第2位

5分12秒87

男子 200m個人メドレー

池之上 真廣 (3 C)

第2位

2分23秒80

實方 亮仁 (3 E)

第3位

2分25秒54

都城オープン大会 (バドミントン)

◎バドミントン競技

D級

久保 偉聖 (3 M)、山元 裕貴 (2 A)

第2位

都城水泳大会

◎水泳競技

一般女子25M自由形

植田 旬美 (5 A)

第1位

15秒31

一般女子50M自由形

植田 旬美 (5 A)

第1位

33秒10

一般男子50Mバタフライ

津留 昇希 (4 M)

第1位

30秒48

混合4×25Mフリーリレー

津留 昇希 (4 M)、植田 旬美 (5 A)

第3位

59秒26

森 翔大朗 (1 M)、山下 琳久 (1 M)

第36回県西地区高等学校弓道大会

女子個人

小林 由希奈 (3 E)

優勝

男子団体

弓道部

準優勝

令和7年度宮崎県学生栄誉賞

◎弓道競技

小林 由希奈 (3 E)

個人の部

◎弓道競技

高橋 倭斗 (3 C)、那須 晃樹 (3 C)

団体の部

高橋 佑和 (2 C)、田島 蒼太郎 (2 E)

学生表彰

令和7年度都城市スポーツ賞

◎陸上競技 個人の部	頼 宏忠 (3 C)	優秀賞
◎水泳競技 個人の部	池之上 真廣 (3 C)	優秀賞
◎柔道競技 個人の部	岩満 琥太郎 (3 C)	優秀賞
◎弓道競技 個人の部	小林 由希奈 (3 E)	優秀賞
◎弓道競技 団体の部	弓道部男子	優秀賞

第70回宮崎県吹奏楽コンクール

大学の部	吹奏楽部	金賞
------	------	----

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2025九州沖縄地区大会

ロボット製作局	Aチーム「御出座し(おでまし)!!カーにバル☆」	デザイン賞
---------	--------------------------	-------

第6回高専インカレチャレンジ

兵藤 美咲 (5 A)	特別賞
-------------	-----

第6回宮崎・学生ビジネスプランコンテスト

テーマ： 剪定ロボット開発班 ～南国リゾートの景観を守る～	坂本 真偉夢 (AD 2 ME)、 大藺 嘉友 (3 M)、 高森 来時 (3 M)	グランプリ 宮崎銀行賞 協賛企業賞 (米良電機産業㈱, ㈱風来軒, 九州電力㈱)
テーマ： ピーマン選果機「せんかちゃん」と「採傷装置」の実用化 ～農業の選別作業をChange～	福重 敦基 (4 M)、木脇 優仁 (4 M)、 津留 昇希 (4 M)	協賛企業賞 (宮崎日機装㈱, 宮崎梅田学園㈱)

令和7年度第16回高校生の「建築甲子園」宮崎県予選大会

チーム・やぎレンジャー	東郷 青空 (3 A)、鮫島 慶光 (3 A)、 八木 麻優利 (3 A)	宮崎県建築協会会長賞
チーム・めいめい	牛道 芽衣 (3 A)	宮崎県建築業協会会長賞

第25回 九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト

テーマ： 剪定ロボット開発班 ～南国リゾートの景観を守る～	坂本 真偉夢 (AD 2 ME)、 大藺 嘉友 (3 M)、 高森 来時 (3 M)	優秀賞 協賛企業等特別賞 (日本弁理士会九州会長賞)
-------------------------------------	--	-------------------------------

第9回「発酵を科学する」アイデア・コンテスト

てげ研 (しその千枚漬け)	後藤 雄海 (5 C)、山下 幸穂 (5 C)、 宮迫 凜花 (5 C)	優秀賞 (発酵食品賞)
発酵クラシック (百白糍)	高橋 佑和 (2 C)、上村 柊斗 (2 C)、 園田 善治 (2 C)、中西 瑠宝 (2 C)	特別賞 (参加者の投票)

The 36th International Symposium on Chemical Engineering (ISChE 2025)

Recovery of Platinum Group Metals from Spent Catalysts by Dry Process	森山 隼太 (AD 1 C)	Best Oral Presentation Award
---	----------------	------------------------------

令和7年度「明るい選挙啓発ポスター・書道作品」

書道の部	中山 湊智 (1 M) 福島 小雪 (2 M)	都城北諸県支会 特選 都城北諸県支会 銅賞
------	----------------------------	--------------------------

Congratulations!



ISC h E2025への参加

物質工学専攻 1年 森山隼太

2025年12月に、韓国で開催された ISChE2025 (International Symposium on Chemical Engineering) に参加した。本学会は、日本、韓国、台湾、タイの4か国が主催する国際学会である。発表形式は口頭発表であり、発表および質疑応答はすべて英語で行われた。全体で5つのセッションが設けられており、私は Thermodynamics & Separation セッションにおいて発表を行った。21歳という研究者として駆け出しの段階で海外の学会に参加し、日本の研究者のみならず他国の研究者とも交流を図り、多くの知見を得ることができた。この学会での経験は、今後の研究活動において何にも代えがたい貴重なものとなるだろう。

二泊三日の海外学会への参加には多額の旅費が必要となり、学生にとって経済的負担は大きい。しかし、都城高専の「海外活動支援事業」により、給付型の支援金10万円を受け取ることができた。このような支援制度があることで、学生の活動の幅は大きく広がる。本支援がなければ、今回の学会参加は実現できなかったと考えられる。このような学生支援が整った環境で研究活動に取り組んでいることに感謝し、今後も一層研究活動に励んでいきたい。



モンゴル科学技術大学およびモンゴル3高専との学生交流

建築学専攻 1年 鈴木花恵、4年機械工学科 山口竜輝、
4年建築学科 荒場空、3年機械工学科 阿部颯生、
1年建築学科 田之上真葉、田之上笑葉、宮田萌々子



2025年8月31日から9月9日にかけて行われた、モンゴル科学技術大学およびモンゴル3高専における学生交流プログラムに参加しました。

モンゴルの学生たちと国際交流ワークショップをしたり、ホームステイや郊外研修を通じて異文化理解を深めたりしました。ワークショップは、モンゴル・ウランバートルの未来ビジョンについてSDGsをテーマに行われました。実際にウランバートルのまちを歩いたり、意見を深めるためにブレインストーミングを行ったりしながら、都市環境改善案についてアイデアを出し合いました。日本人とモンゴル人それぞれの視点からまちを見て意見交換をすることで、文化や環境の違いから生じる考え方の違いに刺激を受けました。ホームステイでモンゴル人の暮らしを体験し、郊外研修でモンゴルの大自然や遊牧文化に触れ、モンゴルに魅了されるとともに、日本の環境のすばらしさも改めて感じることができました。



グループワークで上手く意見を伝えられなかった場面もありましたが、言語能力やコミュニケーション能力を高めたいと思ったと同時に、様々な知識や経験を持つ異国の学生と関わることの楽しさや意義を学びました。本プログラムの参加を通じて広がった知見や刺激を受けたことを、今後のものづくりに生かしていきたいと思います。

留学生として過ごした一年

3年建築学科 Julia(ジュリー)



私は留学生として、この学校に来てもうすぐ一年になります。来たばかりの頃は、授業がすべて日本語で行われることや、日本人ばかりのクラスに入ることによって不安を感じてしまいました。しかし、クラスメイトが分からないところを教えてくれたり、先生方が気さくに声をかけてくださったおかげで、少しずつ慣れていきました。寮生活や体育祭・文化祭などの学校行事を通して、他クラスの学生とも自然に仲良くなり、日本の文化や考え



留学生研修旅行での大分旅行

4年物質工学科 Kei(ケイ)



12月6日から7日にかけて、都城高専の留学生と先生方で、大分への研修旅行に参加しました。本研修旅行は、日本文化や九州の地域的な特色を実際に体験し、理解を深めることを目的として行われました。

初日は大分県に到着後、「うみたまご」を見学しました。館内では多くの海の生き物を観察することができ、展示も分かりやすく工夫されており、楽しみながら学ぶことができました。特に、動物の生態や飼育方法について知ることができた



点が印象に残っています。夕食では、とり天やりゅうきゅうなどの大分名物を味わい、食事を通して地域の食文化にも触れることができました。

2日目は別府地獄めぐりを行い、海地獄・鬼山地獄・白池地獄を見学しました。それぞれの地獄で温泉の色や温度、景観が異なり、地熱エネルギーの豊かさや自然現象の多様さを実感しました。別府ならではの温泉文化を実際に見ること

で、日本の自然と人々の暮らしが深く結びついていることを理解することができました。

今回の研修旅行を通して、九州の新たな魅力を知るとともに、日本の文化や自然への理解をさらに深めることができました。また、留学生同士や先生方との交流も深まり、非常に有意義な経験となりました。このような貴重な機会を提供してくださった先生方に、心より感謝します。



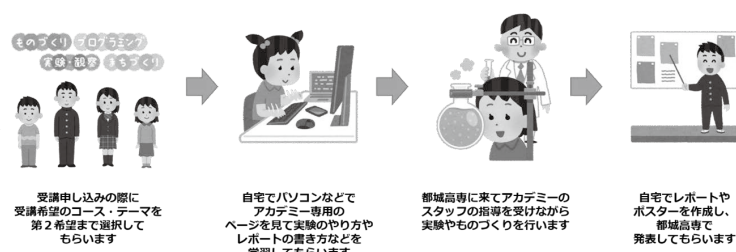
少年少女科学アカデミー

都城高専 少年少女科学アカデミーの取組み

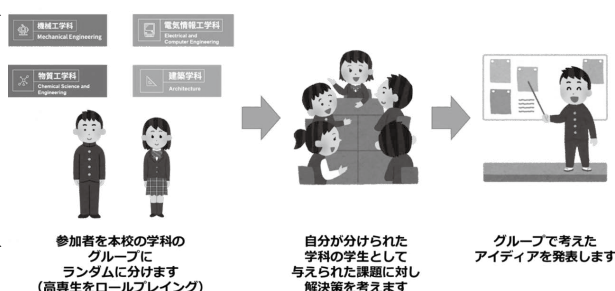
実験や、ものづくりに興味のある人、将来、技術者（エンジニア）になって、宮崎、そして日本、さらには世界で活躍したいと考えている小中学生の皆さん、そんなあなたたちをサポートするのが、少年少女科学アカデミーです。本事業は、平成30年度「KOSEN（高専）4.0」イニシアティブ事業において「次世代を担う少年少女科学アカデミーの設立～グローバル人材育成への架け橋～」の事業名で採択されました。この事業では、小中学校と都城高専の架け橋となる「少年少女科学アカデミー」を設立し、小中学生の早期技術者教育およびグローバル人材育成のための小中学校・高専一貫教育システムを構築し実施することを目的としており、毎年開催しています。

少年少女科学アカデミーには、「ベーシックプログラム」と「アドバンスドプログラム」の2つのコースがあります。ベーシックプログラムは小学校5年生から中学生を対象に、本校の設備を利用して、本校の学生（高学年生・専攻科生）と共に研究体験を行います。アドバンスドプログラムは中学2年生以上を対象に、本校の学生（高学年生・専攻科生）と共にアイデア発想演習を行います。

【ベーシックプログラムの流れ】



【アドバンスドプログラムの流れ】



令和6年度のベーシックプログラムは、令和7年3月に「本気で作る最強コマ（機械工学科）」「コンピュータに画像を学習させてみよう（電気情報工学科）」「レーザーカッターを使って強い紙の橋をつくろう（建築工学科）」の3つのプログラムを実施し、延べ22名の小・中学生が参加しました。参加者からは「始めてやることや、知らないことが知れて面白かった」「高専はほかの学校とは違い専門のことを学ぶことができるので、とても楽しかった」「今回の体験で、身近な物の作りを学ぶことができた」などの意見が寄せられました。



令和7年度のアドバンスドプログラムでは「宮崎スマート未来都市プロジェクト ～高専の技術とアイデアで地域をアップデートしよう～」というテーマで令和7年12月20日・21日に実施しました。県内各地より5名の中学生が参加し、TA学生4名及び教職員スタッフと共に協力して2日間かけてアイデアを出し合いました。そして、プログラムの最後にはそれぞれの班が考えたアイデアを発表し、最優秀賞・優秀賞を選出しました。参加した中学生からは「グループで意見をまとめ、資料を作成したり、よりよい発表になるように改善点を考えたりと、とても良い経験が出来た」「初めて会う人と2日間で一緒に話し合い、解決策を考えたりする活動は初めてだったので、とても楽しかった」などの意見が寄せられました。また、TAとして参加した学生からも「小学生や高校生ともこのようなワークショップを行いたいし、授業にもぜひ取り入れてほしい」「中学生の思考の柔軟さに驚いた。初心に帰れる良い機会だった。」など、本校学生にとっても学びを得る機会になったと思います。



このように、少年少女科学アカデミーでは、事業を通して、将来の技術者の裾野拡大を図ると共に、「本校にマッチした志願者の安定確保」「本校学生の指導力向上」「宮崎県における高専教育の理解と本校の重要性の向上」を目指して今後も活動を続けていきたいと思います。

主な就職・進学内定先一覧（順不同）

（令和8年1月現在）

本 科	
機械工学科	○アマゾンジャパン合同会社 ○ANAラインメンテナンステクニクス株式会社 ○大阪ガスネットワーク株式会社 ○株式会社オーバル ○山九株式会社 ○株式会社サントリープロダクツ ○JNCエンジニアリング株式会社 ○Daigasエナジー株式会社 ○Daigasガスアンドパワーソリューション株式会社 ○株式会社タマディック ○DMG森精機株式会社 ○東プレ株式会社 ○日本アルコール産業株式会社 ○三菱電機エンジニアリング株式会社 ○三菱電機エンジニアリング株式会社 名古屋事業所 ○株式会社ユー・エム・アイ ○レイズネクスト株式会社 ○熊本大学 ○九州大学 ○長岡技術科学大学 ○大阪産業大学 ○鹿児島大学 ○宮崎大学 ○都城工業高等専門学校 専攻科 求人件数 計 1,401 件
電気情報工学科	○ANAラインメンテナンステクニクス株式会社 ○アバナード株式会社 ○カゴメ株式会社 ○キャノンメディカルシステムズ株式会社 ○九州電力株式会社 ○株式会社クラフティア ○KDDIケーブルシップ株式会社 ○株式会社サンネット ○富士電機株式会社 ○株式会社宮崎銀行 ○株式会社宮崎太陽銀行 ○有限会社ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所 ○豊橋技術科学大学 ○長岡技術科学大学 ○熊本大学 ○都城工業高等専門学校 専攻科 求人件数 計 1,293 件
物質工学科	○味の素株式会社 ○アプライドマテリアルズジャパン株式会社 ○アマゾンジャパン合同会社 ○出光興産株式会社 ○AREホールディングス株式会社 ○株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー ○ENEOS株式会社 ○サントリーホールディングス株式会社 ○第一三共株式会社 ○太陽ファルマテック株式会社 ○中外製薬工業株式会社 ○東京エレクトロン株式会社 ○東京瓦斯株式会社 ○日本乳化剤株式会社 ○丸善石油化学株式会社 ○三井化学株式会社大阪工場 ○都城工業高等専門学校 専攻科 求人件数 計 1,178 件
建築学科	○旭化成株式会社 ○株式会社飯田産業 ○株式会社大林組 ○株式会社オープンハウス・ディベロップメント ○鹿島建設株式会社 ○株式会社K GRIT ○株式会社ザイマックス ○清水建設株式会社 ○株式会社シミズ・ビルライフケア ○株式会社秀建 ○住友林業株式会社 ○大豊建設株式会社 ○株式会社竹中工務店 ○株式会社長谷工コーポレーション ○防衛省 ○三菱重工機械システム株式会社 ○三菱地所コミュニティ株式会社 ○大分大学 ○東京都立大学 ○熊本大学 ○前橋工科大学 ○豊橋技術科学大学 ○都城工業高等専門学校 専攻科 求人件数 計 1,183 件

専 攻 科			
機械電気工学専攻	○株式会社NBCメッシュテック ○株式会社小松製作所 ○株式会社ジェイ・クリエーション ○トヨタ自動車九州株式会社 ○パナソニック株式会社 ○ミネベアアクセスソリューションズ株式会社 ○株式会社ユー・エム・アイ ○株式会社ラック ○北陸先端科学技術大学院大学 ○熊本大学大学院 ○長岡技術科学大学大学院 ○横浜国立大学大学院	物質工学専攻	○中外製薬工業株式会社 ○東京科学大学大学院 ○大阪大学大学院 ○九州大学大学院 ○名古屋大学大学院
		建築学専攻	○鹿児島県庁 ○ダイキンエアテクノ株式会社 ○東急電鉄株式会社 ○株式会社益田設計事務所 ○八洲建設株式会社 ○ランドブレイン株式会社

求人件数 計 4,874 件

都城工業高等専門学校校歌

作詞 清水 徹
作曲 海老原 直

Moderato
mf con spirito

(1)ぎょう うおか んきき はれい 一きわ ゆしね るをに きつう 一りたる 一しえわ 一またし 一のるく みふま

ねるた みきお ねみお とやし 一おく 一くにも ああさ おたき 一ぎらに 一つしお 一つきう たこみ

かうや きがま りくき そのり うみし あきか くわた 一がめど るんとて こつひ こころ ろいく もしゆ きわた よれけ きらき わはき かっよう うどく ののの ゆこは

めこな はろは ぐとひ くわら まざか 一んのん ままま ななな びび 一やや 一ぞぞぜ あ

あ こ う せーん み や こ の じょう (2)と (3)た じょう

1.2. *mf* 3.

三 高き岩根に美しく
また雄々しくも咲き匂う
みやま霧島かたどりて
花は開かん学舎ぞ
ああ高専都城

二 遠き歴史を伝えたる
古き都に新しき
工学の道極めんと
集いしわれら八百の
心と技術の学舎ぞ
ああ高専都城

一 暁雲映ゆる霧島の
峰々遠く仰ぎつゝ
高き理想にあくがるる
心も清き若人の
夢はぐくまん学舎ぞ
ああ高専都城



独立行政法人国立高等専門学校機構

都城工業高等専門学校

National Institute of Technology(KOSEN), Miyakonojo College

〒885-8567 宮崎県都城市吉尾町473番地の1

TEL (0986) 47-1107 FAX (0986) 38-1508

URL <https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/>

